

福岡市埋蔵文化財調査報告書第895集

# 博 多 109

— 博多遺跡群第151次調査の報告 —

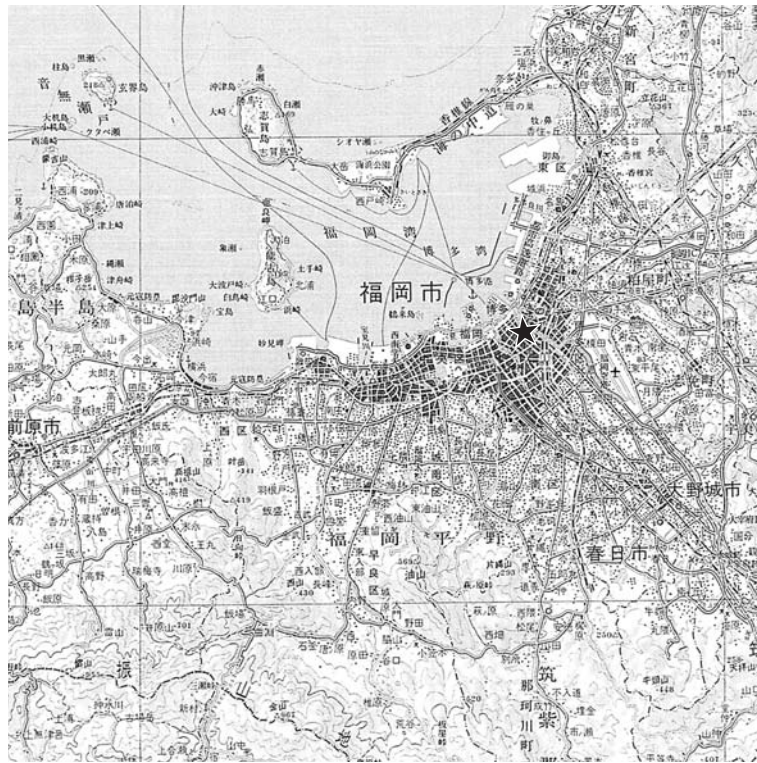
2006

福岡市教育委員会

# 博多 109

—博多遺跡群第151次調査の報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第895集



|        |                 |        |           |      |        |
|--------|-----------------|--------|-----------|------|--------|
| 遺跡調査番号 | 0482            | 遺跡略号   | HKT - 151 |      |        |
| 地番     | 博多区呉服町85・86     | 分布地図番号 | 天神 49     |      |        |
| 開発面積   | 274.77㎡         | 調査対象面積 | 162.8㎡    | 調査面積 | 162.8㎡ |
| 調査期間   | 平成17年2月7日～3月23日 |        |           |      |        |

2006

福岡市教育委員会

## 序 文

玄界灘に面して広がる福岡市は、古くから大陸との玄関口として発展し、市内には豊かな自然と多くの遺跡が残されています。これらは私たちの暮らしに潤いを与え、豊かな生活環境を作り出しています。私たちはこれらの遺跡を後世に伝えていくことを願い、さまざまな形で遺跡の保護・活用に取り組んでいます。

その一方で、最近の都市の発展により新しい開発事業が数多く手がけられ、そのために重要な遺跡が破壊され、失われつつあるという厳しい現実があります。当教育委員会ではこれらの遺跡についてはあらかじめ事前に発掘調査を行い、先人の足跡を後世に残せるよう、その記録保存に努めています。

本書は博多区上呉服町地内における博多遺跡群第151次調査の成果を報告するものです。この調査により、12世紀から17世紀にかけての重要な遺構、遺物を確認することができ、この地域での貴重な資料を得ることができました。

本書が文化財保護への理解と協力を得られる一助となるとともに、学術研究の資料として御活用いただけましたら幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行に至るまで費用負担など多くのご協力を頂いた株式会社朝倉不動産をはじめとする関係者の方々に対し、心より謝意を表します。

平成18年3月31日

福岡市教育委員会  
教育長 植木 とみ子

## 例 言

1. 本書は共同住宅建設に先立って福岡市教育委員会が平成17年2月7日から平成17年3月23日にかけて行った博多遺跡群第151次調査の調査報告書である。
2. 本書に掲載した遺構実測図の作成は、大塚紀宜のほか、藤島志考、佐藤圭悟、井上玲那が行った。
3. 本書に掲載した遺物実測図の作成は大塚、藤島が行った。なお遺物の採拓で篠原明美、古城恭子の協力を得た。
4. 本書に掲載した写真の撮影は大塚が行った。
5. 本書に掲載した挿図の整図は大塚、藤島が行った。
6. 本書で用いた方位は座標北である。
7. 本書で用いた座標は国土座標第Ⅱ系を使用している。座標北は真北から0° 19′ 西偏する。
8. 本書で使用した遺構の呼称は、溝状遺構をSD、井戸・井戸状遺構をSE、土坑をSK、柱穴・ピットをSPと略号化している。
9. 遺構・遺物番号は基本的に各々通し番号で、重複はなく、一部欠番が生じる。
10. 本書に関わる記録・遺物などの資料は福岡市埋蔵文化財センターに保管される予定である。
11. 本書の執筆・編集は大塚が行い、7. 動物遺存体については屋山洋（福岡市教育委員会埋蔵文化財課）が執筆し、銭貨については片多雅樹（福岡市埋蔵文化財センター）の協力を得ている。

## 目 次

|             |    |
|-------------|----|
| 第1章 はじめに    | 1  |
| 1. 調査に至る経緯  | 1  |
| 2. 発掘調査の組織  | 1  |
| 第2章 調査概要    | 2  |
| 1. 調査概要     | 2  |
| 2. 第1面の調査   | 3  |
| (1) 土坑      | 3  |
| 3. 第2面の調査   | 9  |
| (1) 溝状遺構    | 9  |
| (2) 土坑      | 11 |
| 4. 第3面の調査   | 14 |
| (1) 土坑・土壙墓  | 14 |
| 5. 第4面の調査   | 18 |
| (1) 井戸      | 18 |
| (2) 土坑      | 19 |
| 6. 第5面の調査   | 22 |
| (1) 井戸      | 22 |
| (2) 土坑      | 23 |
| 7. 動物遺存体    | 23 |
| 8. 出土銭貨・銅製品 | 23 |
| 第3章 小結      | 25 |

# 第1章 はじめに

## 1. 調査に至る経緯

2004年（平成16年）2月24日付けで、株式会社朝倉不動産 代表取締役末石晃氏より福岡市博多区上呉服町85・86地内における共同住宅建設にともなう埋蔵文化財の有無についての照会が申請された。これをうけて埋蔵文化財課では申請地が周知の遺跡である博多遺跡群の範囲内に位置することから、埋蔵文化財課では関係者と協議を重ねた結果、建物の建築予定部分については建物基礎が遺構面に影響を与えることから建築範囲について発掘調査による記録保存を図ることとし、平成17年2月から3月にかけて発掘調査を実施した。

調査に先行して、建築工事に伴う矢板打込み、表土搬出を行い、その後に調査を開始した。調査は2月7日より作業員による遺構検出、遺構掘削を行い、以後3度にわたる廃土搬出を行いながら人力による遺構検出、遺構掘削を行い、3月23日に調査を終了した。

発掘調査の実施にあたっては、株式会社朝倉不動産をはじめ関係者の方々に多大な御理解と御協力をいただきました。ここに記して感謝いたします。

## 2. 発掘調査の組織

事業主体 株式会社朝倉不動産  
調査主体 福岡市教育委員会  
調査総括 埋蔵文化財課 課長 山口譲治  
庶務担当 文化財整備課 御手洗清（平成16年度）  
鈴木由喜（平成17年度）  
事前審査 埋蔵文化財課事前審査係 久住猛雄  
調査担当 埋蔵文化財課調査第2係 大塚紀宜  
調査作業 石川洋子 泉本タミ子 伊藤美伸 乾俊夫 桑原美津子 柴田博 田中トミ子 濱地静子 林厚子  
播磨千恵子 平井武夫 吹春憲治 北條こず江 水野由美子  
藤島志考 佐藤圭悟 井上玲那（福岡大学文学部）  
整理作業 篠原明美 古城恭子  
藤島志考（福岡大学文学部）



Fig. 1 調査区周辺地図（1 /1000）

## 第2章 調査概要

### 1. 調査概要

調査地点は福岡市博多区上呉服町85・86に位置する。博多遺跡群全体のなかで今回の調査地点は遺跡群のほぼ中央部に位置する。聖福寺の西側にあたり、通称「博多浜」の北側砂丘鞍部に立地する。現況の標高は6.7mを測る。調査面積は162.8㎡である。

調査は地表下1～1.2mの暗灰色土上層を第1面として調査を開始し、各遺構面の調査が終了次第、順次下層に掘り下げて調査を進めていった。調査を実施した遺構面は5面にのぼる。なお、矢板打ち込みの深度が浅く、第2面以下は調査区周囲から1～2mの間隔を確保しながら掘削せざるを得なかったため、下面の調査区ほど調査面積が狭くなっている。

現地の基本層序の大略は、第1面以下、暗灰褐色土、暗黒灰褐色土、黒灰色砂、明褐色砂となる。第1面以上は、矢板によって土層観察は行えなかったが、掘り下げ時の観察では近世から現代にかけて堆積した造成盛り土で、廃材が多量に含まれており、締まりなく柔らかい。各遺構面の設定は、第1面が先述したとおり暗褐色土層上面で標高5m付近、第2面は暗黒灰褐色土層上面で標高4.4m、第3面は暗黒灰褐色土層中段で、標高3.9m前後、第4面は黒灰色砂層上面で標高3.6m、第5面は地山土である明褐色砂層上面で、標高3.1m付近である。

各遺構面の大きな年代は第1面が18世紀頃、第2面が15～16世紀、第3面が13世紀後半～14世紀前半、第4面が11世紀後半～12世紀後半、第5面が12世紀前半に該当するとみられる。第5面以下の

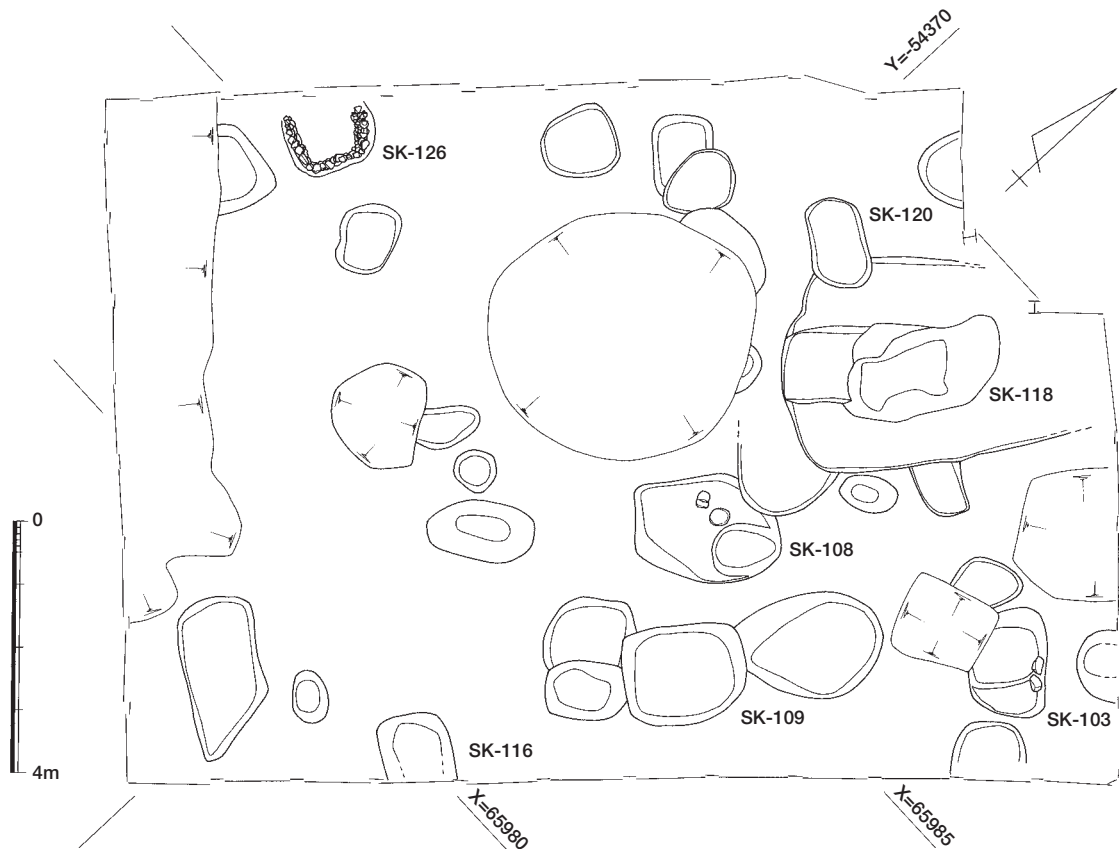


Fig.2 第1面遺構配置図 (1 /120)

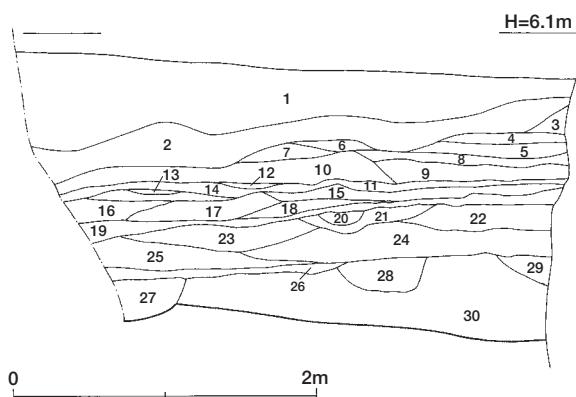


Fig.3 調査区南西壁面土層図 (1/50)

1: 暗褐色土 (炭化物・焼土多) 2: 暗褐色土 (炭化物・焼土多) 3: 暗褐色土 (炭化物多) 4: 暗黒灰褐色土 (炭化物・焼土多) 5: 暗黒灰褐色土 (焼土多) 6: 明薄褐色土 (炭化物・焼土多) 7: 薄暗黒灰褐色土 (炭化物・焼土多) 8: 暗黒灰褐色土 (炭化物・焼土多) 9: 暗黒灰褐色土 (炭化物・焼土多) 10: 暗黒灰褐色土 (炭化物・焼土多) 11: 暗黒灰褐色土 (炭化物・焼土多) 12: 暗黒灰褐色土 (炭化物・焼土多) 13: 暗黒灰褐色土 (炭化物・焼土多) 14: 暗黒灰褐色土 (炭化物・焼土多) 15: 暗黒灰褐色土 (炭化物・焼土多) 16: 暗黒灰褐色土 17: 暗黒灰褐色土 18: 暗黒褐色土 19: 暗黒灰褐色土 20: 暗黒灰褐色土 21: 暗黒灰褐色土 22: 暗黒灰褐色土 23: 暗黒灰褐色土 24: 暗黒灰褐色土 25: 暗黒灰褐色土 26: 黒灰色シルト 27: 暗黒灰色土 28: 黒灰褐色土 29: 黒灰褐色土 30: 黒灰褐色砂質土 31: 明褐色砂質土

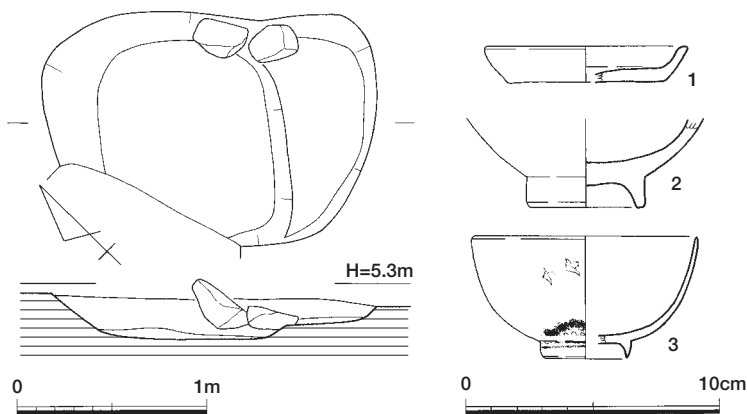


Fig.4 SK-103遺構実測図(1/40) Fig.5 SK-103出土遺物実測図(1/3)

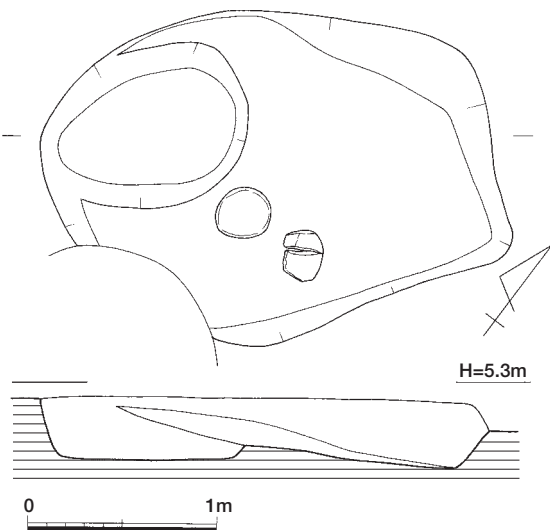


Fig.6 SK-108遺構実測図 (1/40)

明褐色砂層は風成砂層で、脆く崩れやすい。また明褐色砂層内部では人為的な遺構は認められず、遺物も出土しない。各遺構面で検出された遺構の一部は上層遺構面で見落とした遺構で、同一面での遺構の平行関係が乱れた部分もあるが、各遺構の年代は出土遺物により判断できると考えられる。

## 2. 第1面の調査

第1面では土坑、ピットなどを検出した。遺構面の土質と遺構覆土が近似しており、遺構検出や遺構掘削の段階で両者が不明瞭になった部分もある。検出できた遺構は、軸線が北北東-南南西を向くものが多い。

### (1) 土坑

#### SK-103 (Fig.4)

調査区北東側で検出された土坑で、西側を攪乱で切られる。平面形は隅丸長方形で、断面は浅い皿状を呈する。床面は平坦で壁は緩く開き気味に立ち上がる。西側が東側に比べて1段低くなっており、2基の土坑が重複して検出されている可能性もある。北側壁際に石材が2基位置しており、壁面の石囲いか基礎の根石として利用されたものと考えられる。出土遺物からみて遺構の時期は17世紀と考えられる。

#### 出土遺物 (Fig.5)

1は土師器皿。口径8.0cm、底部切り離しは糸切りで、内外面は横ナデ。2は白磁碗。釉は乳白色の

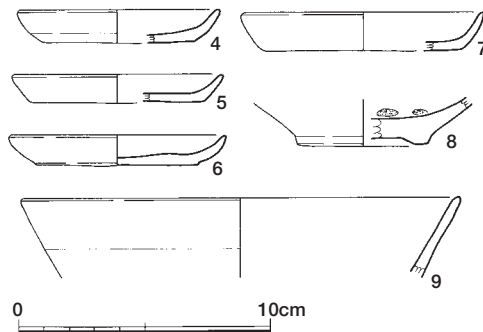


Fig.7 SK-108出土遺物実測図 (1/3)

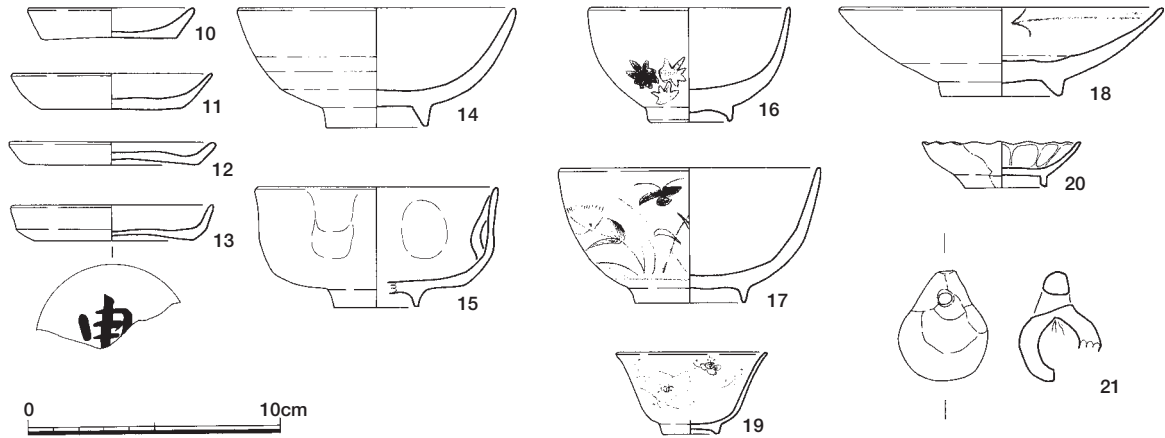


Fig.8 SK-109出土遺物実測図 (1 / 3)

ガラス質で厚く施釉され、畳付のみ露胎。全体に丸味を帯びた器形である。3は染付碗。体部は丸味を帯び、口縁は直口する。外面に鳥文、草木文とみられる文様を染付で描く。文様はかなり抽象化されている。内面は無文。

**SK-108 (Fig.6)**

調査区の中央やや東よりで検出された土坑。北側をSK-107に切られる。平面形は隅丸長方形に近い不整形で、SK-103と同様、2基の土坑が重複して検出された可能性もあり、断面は浅い皿状を呈し、床面は平坦で壁はやや開き気味に立ち上がる。遺構北側で一段低い楕円形の部分があるが、覆土

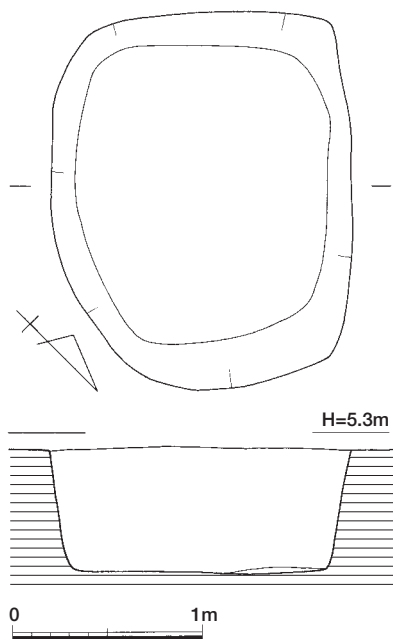


Fig.9 SK-109遺構実測図 (1 / 40)

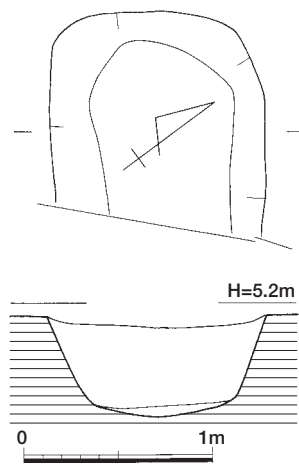


Fig.10 SK-116遺構実測図 (1 / 40)

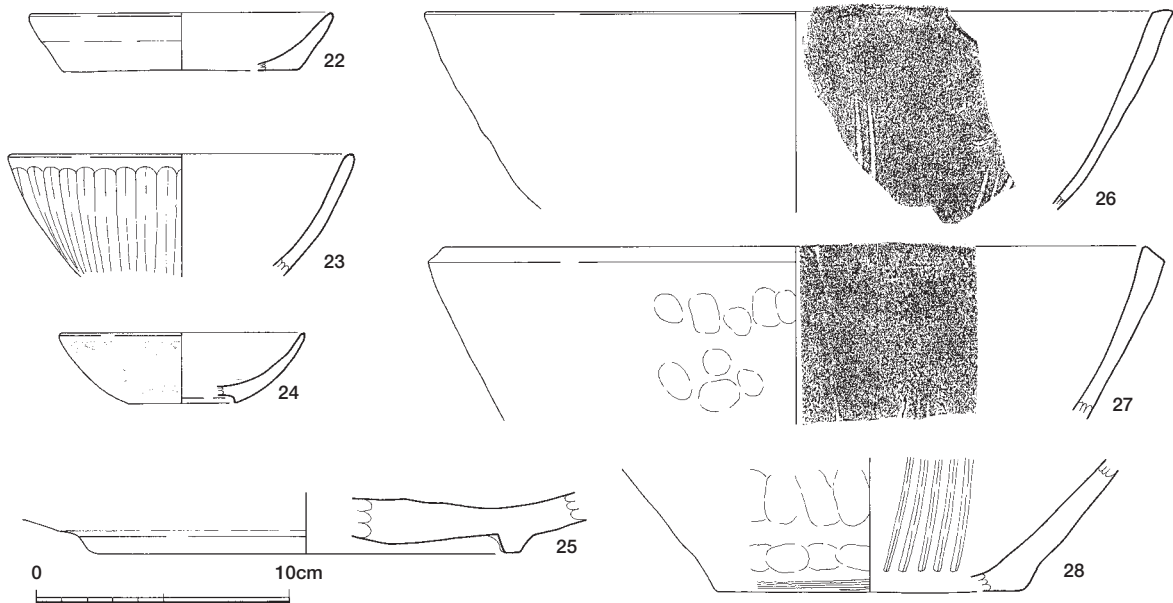


Fig.11 SK-116出土遺物実測図 (1 / 3)

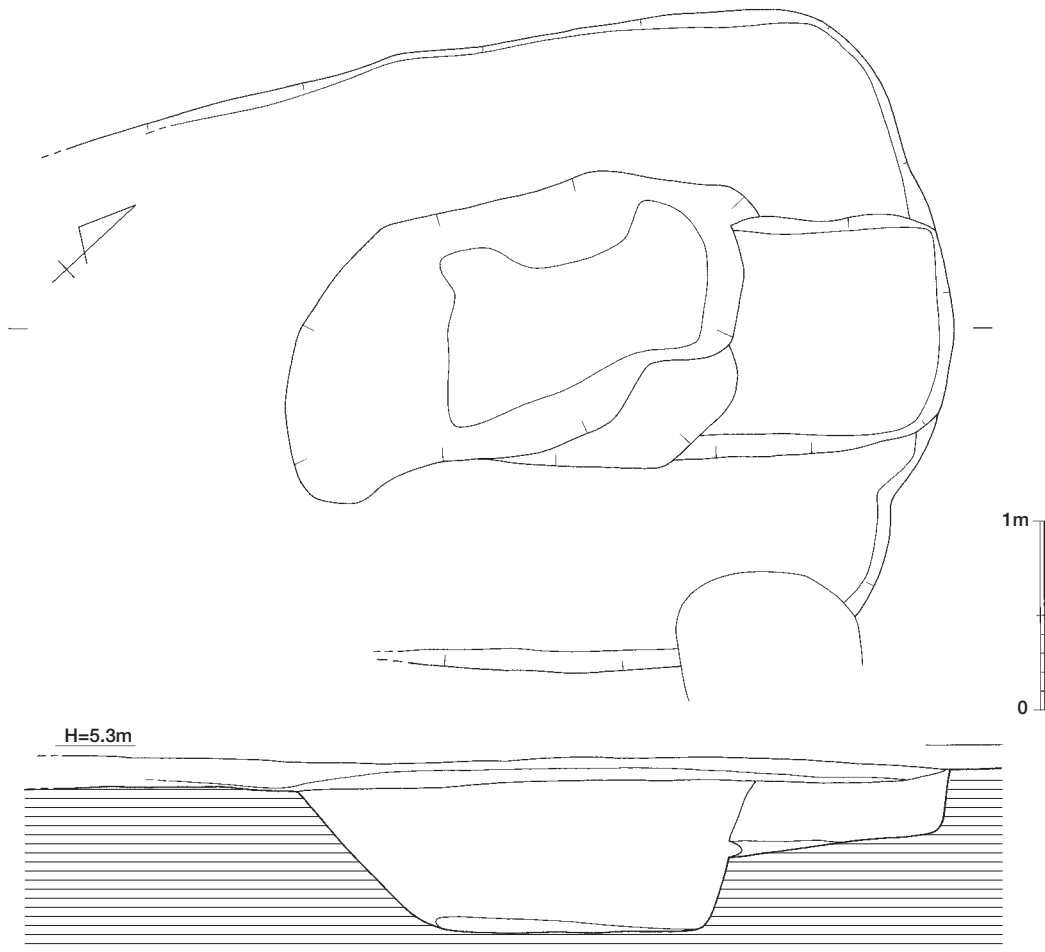


Fig.12 SK-118遺構実測図 (1/40)

は遺構内の他の部分と大差ない。遺構内から2基の石材が検出され、いずれも円形で扁平な形をしており、建物の柱礎石とも考えられる。

#### 出土遺物 (Fig.7)

4～7は土師器皿。4～6は口径は8.0～8.6cmでいずれも底部切り離しは糸切りで、4・5は体部が直線的に開き、6は体部が緩く内湾する。体部外面は横ナデ。内面は4・5はナデ、6は横ナデ。7は口径9.6cmとやや大きめで、底部切り離しは糸切り、内外面は横ナデ。8は白磁底部。粗製品で、器壁や釉表面の細かい凹凸が目立つ。釉は白色不透明で、畳付以外は施釉される。内面見込みと畳付に砂目痕があり、畳付の砂目は丁寧に削り取っている。高麗後期～朝鮮時代のものと推定される。9は陶器椀。体部は直線的に開く。全面に施釉され、釉は灰白色で胎土に砂を多く含む。

#### SK-109 (Fig.9)

調査区東側で検出された土坑。遺構北側は覆土と床面の境界が不明瞭で、遺構形状を完全にはとらえられていない。平面形は隅丸長方形で、ほぼ左右対称の整った形状である。断面は箱形で、床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

出土遺物 (Fig.8) 10～13は土師器皿。10は口径が小さく、器高が高いもの。底部は糸切り後ヘラ削り、体部外面と内面は横ナデ。11はやや丸味を持った体部で、底部は糸切り、体部外面と内面は横ナデ。12は全体に扁平な形で、底部は糸切り、体部外面と内面は横ナデ。13は体部が屈曲しながら立ち上がる。底部は糸切り、体部外面と内面は横ナデ。底部には「申」とみられる墨書がある。14・15は



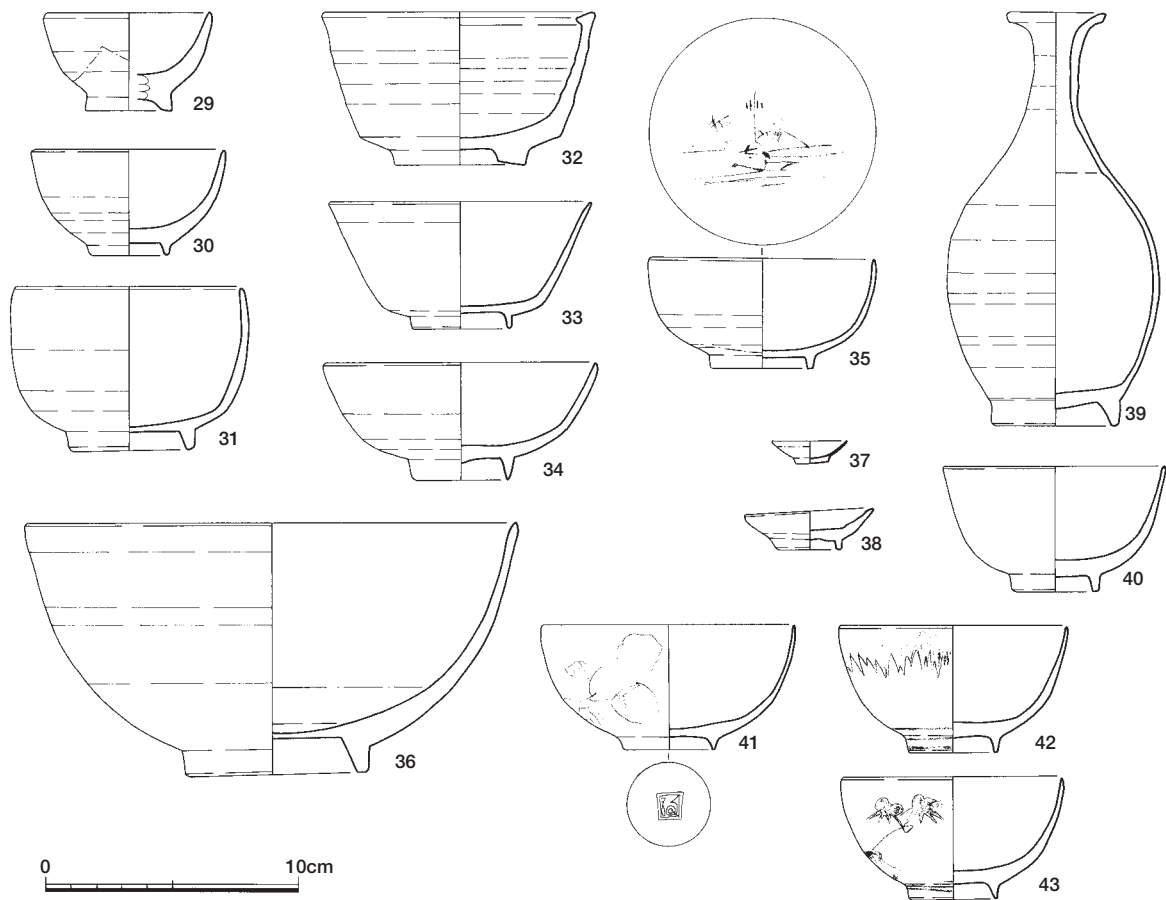


Fig.13 SK-118出土遺物実測図1 (1 / 3)

陶器碗。丸味を持つ体部で、内外面には褐色地に横方向の白色刷毛目を施す。底部はヘラ削りで、高台内側まで施釉される。唐津焼とみられる。15は黒褐色の釉が内外面に施釉され、外面はさらに緑色、白色の釉が重ねて施釉される。体部には凹凸がつく。16~18は染付碗。16は外面に楓、17は外面に草花文、18は内面に線画をそれぞれ描く。19は染付の猪口で、外面に赤絵で草花などを描く。20は白磁合子。器形は花卉状になる。21は土鈴。

**SK-116 (Fig.10)**

調査区南東側で検出された遺構で、東側は調査区外に及ぶ。平面形は隅丸長方形になるとみられ、床面はやや丸く、壁面はやや開き気味に立ち上がる。遺構覆土は暗灰色で遺構面よりわずかに粘性を持つが、両者とも大差ない。

**出土遺物 (Fig.11)**

22は土師器坏。底部切り離しは糸切りで、体部は直線的に外反する。体部外面と内面は横ナデ。23は青磁碗。体部はやや丸味を帯び、口縁は直口する。器壁は厚めである。外面には沈線による蓮弁文が施文される。24は染付皿。外面には草木文のような文様を染め付ける。見込みにも文様が描かれる。25は青磁の壺または甕とみられる底部である。内外面に緑色透明の厚い釉を施釉し、畳付まで施釉される。26~28は播鉢。26は瓦器質で2条1組の播目が施される。27は土師質で3条1組の播目、28も土師質で5条1組の播目が施される。

**SK-118 (Fig.12)**

調査区北側で検出された土坑。北東側は調査区外に及ぶ。覆土は暗灰色で締まりなく、非常に軟弱

だったため、当初は攪乱とみて掘り下げを行ったが、遺物がまとまって出土したことから遺構として報告する。遺構全体の平面形は隅丸長方形とみられる。遺構中央部はさらに一段不整形に掘り下がり、さらに北側にも床面レベルの異なる平坦面を持つ掘り込みがみられるなど、複数の遺構が重複して検出されたものとみられる。

中央の掘り込みは、床面は平坦で東西の壁は比較的垂直に立ち上がり、南北の壁は緩く開き気味に立ち上がる。また北側の掘り込みは床面が平坦で壁は比較的垂直に立ち上がる。遺物の大半は中央部の掘り込み内から出土している。出土遺物 (Fig.13・14)

29~36は陶器碗。29・30は小形で、29は内外面に黄褐色の釉を施す。30は内面は釉が厚めで黒褐色を呈し、外面は畳付を除いて褐色釉がかかる。31は体部が内湾気味に立ち上がるもので、畳付以外は施釉され、内外面は褐色の

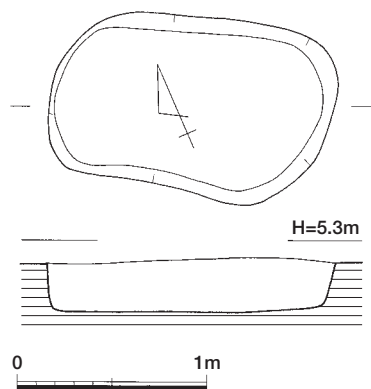


Fig.15 SK-120遺構実測図(1/40)

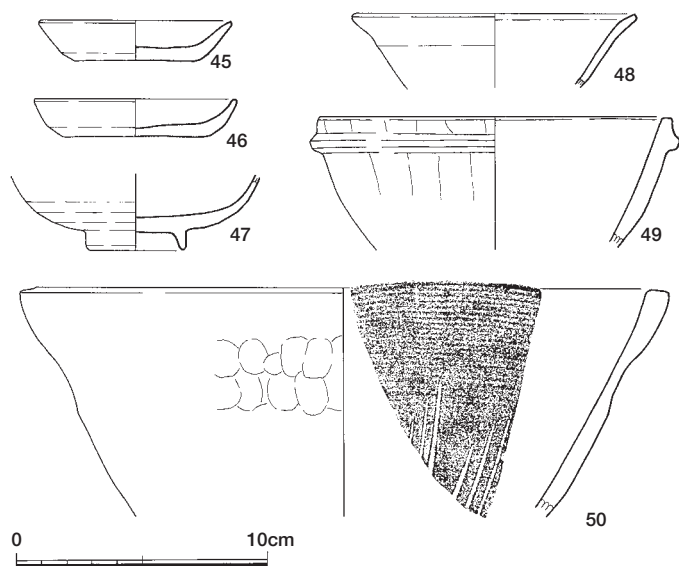


Fig.16 SK-120出土遺物実測図 (1/3)

地に横方向の白色刷毛目を施す。32は体部が直線的に立ち上がり、口縁端部は内側に張り出す。内面に横ナデ成形の痕跡が明瞭に残る。高台内面と畳付以外は施釉され、釉は緑色透明のガラス質。33は体部が直線的に開くもので、器壁は薄い。内外面に褐色釉がかかり、白色釉が重ねて施釉される。34は体部が横に開き、内外面に灰色釉と白色刷毛目が施釉される。見込みに

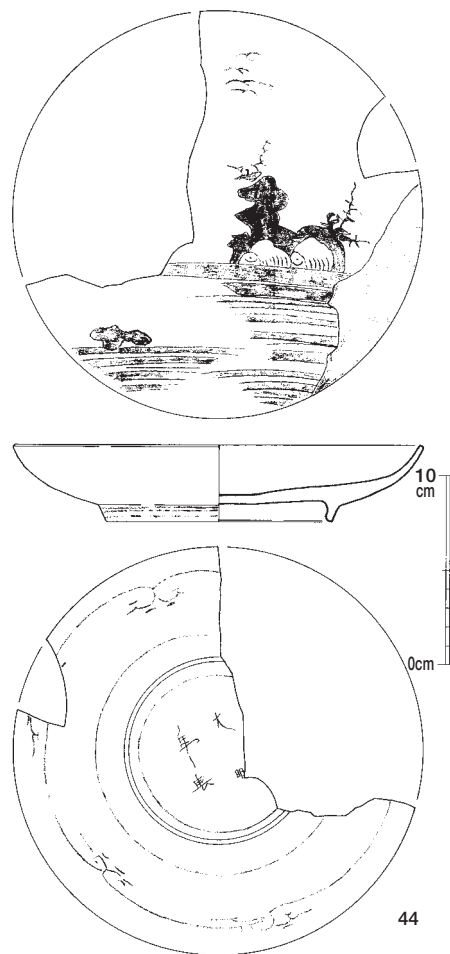


Fig.14 SK-118出土遺物実測図 2 (1/4)

釉剥ぎ、砂目が残りに、高台端部に砂が付着する。35は全体に明褐色を呈し、見込みに船、船頭をかなり抽象化したモチーフの絵を描いている。絵柄はかなり抽象化されているが、同様のモチーフは類例がある。35と同形同色の無文の碗はSK-118内から他に多数出土する。36は大型の碗で内外面は緑褐色釉に横方向の白色刷毛目を施す。見込みは釉を輪状に掻き取る。以上の陶器碗は唐津焼とみられる。

37・38は白磁の猪口でセットとみられる。作りは粗く、不整形である。39は白磁瓶。釉は灰白色で透明。40は白磁碗。

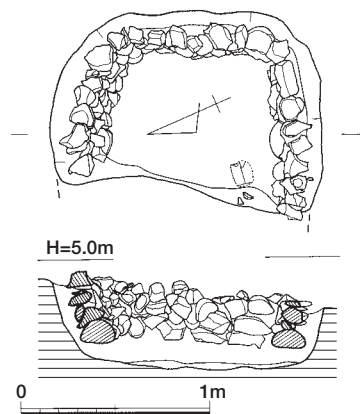


Fig.17 SK-126遺構実測図(1/40)

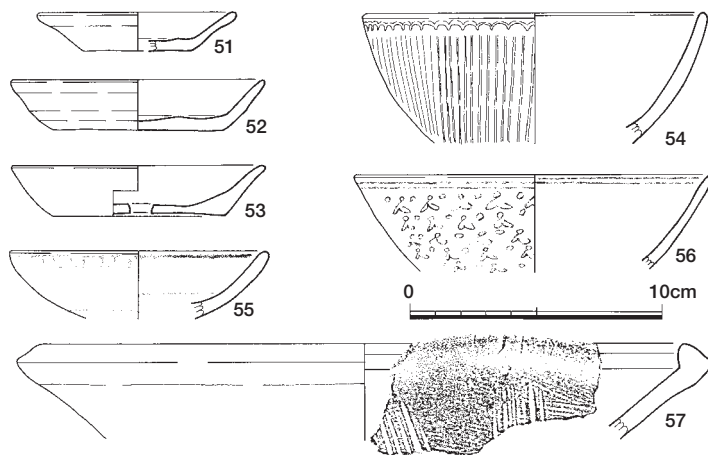


Fig.18 SK-126出土遺物実測図(1/3)

と内面の釉を剥ぎ取り、口禿げとする。49は石鍋。口径14.0cmと小形で、口縁下に突帯を削り出す。50は陶器播鉢。須恵質で灰色を呈する。外面はナデで、粘土接合部付近は強く指圧する。内面に3条1組の播目を施す。

#### SK-126 (Fig.17)

調査区西側で検出された遺構で、遺構西側は矢板近くのため掘削不能で、遺構東半分のみ掘削となった。平面形は方形で、やや胴が張る。床面は平面で、壁面には石材を4~5段積み上げて壁としている。石材は多くが20cm以下の小形の石で、自然石を粗割りしたものを使用している。石の積み方は比較的丁寧で、石材の隙間はほとんどない。また、石組みのコーナー部分は角が明瞭でなく、やや丸味をもっており、これは土坑掘方壁面を連続して石材が積まれたことを示している。覆土は暗黒灰色土で、遺構面とほとんど同じ土質である。

#### 出土遺物 (Fig.18)

51は土師器皿。底径は小さく、体部は軽く外反しながら大きく開く。底部切り離しは糸切りで、体部外面と内面は横ナデ。52・53は土師器杯。底部と体部の屈曲部は丸味を帯び、体部は直線的に開く。底部は糸切り、体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。53は底部中央に焼成後の穿孔をもつ。全体に作りが雑で歪みが大きい。底部は糸切り、体部外面と内面は横ナデ。54は青磁碗。体部は丸味を持ち、器壁が厚い。外面に蓮弁文と片彫り状の縦沈線を施す。上の花卉と下の縦線は対応しない。55は染付皿または小碗。外面に横線と縦線で文様を染付け、内面も横線を施文する。56は染付碗で、外面には

釉は灰白色で透明。他の染付と同型同大である。

41~43は染付碗。41は外面に褐色の地に鉄絵で花文などを描く。内面は無地。高台内面に「福」字を意匠化して描く。42は外面に芒状文を描き、底部に3条の横線を施す。43は外面に草本文様を描き、底部に3条の横線を施す。44は染付大皿で、内面には風景とみられる絵を描く。高台内面には「大明年製」の銘が書かれているが、これは偽銘で「製」の字もかなり崩れている。

以上の染付は肥前系とみられ、37~40の白磁も同産とみられる。

#### SK-120 (Fig.15)

調査区北側で検出した遺構で、SK-118を切る。平面形は楕円形に近い隅丸長方形で、西側がやや丸くなる。断面は箱形で、床

面は平坦で、壁は直に立つ。遺構覆土は暗灰褐色で遺構面と大差ない。

#### 出土遺物 (Fig.16)

45・46は土師器皿。45は底径がやや小さく、体部は直線的に開く。46は体部がやや丸味を帯びる。45・46とも底部は糸切りで、体部外面と内面は横ナデ。47は陶器碗。畳付を除き高台内まで施釉され、見込みには砂が付着する。48は白磁小碗。体部は直線的に開き、口縁は軽く外反し、端部は削って面取りする。口縁端部

幾何学文様、内面には横線を施文する。57は陶器播鉢。胎土は須恵質で、東播系とみられる。内面には5条1組の播目が切られる。口縁端部は内側に張り出し、外面は横ナデで仕上げる。

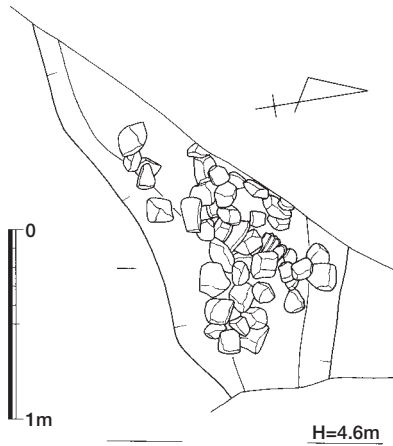


Fig.20 SD-202西側遺構実測図(1/40)

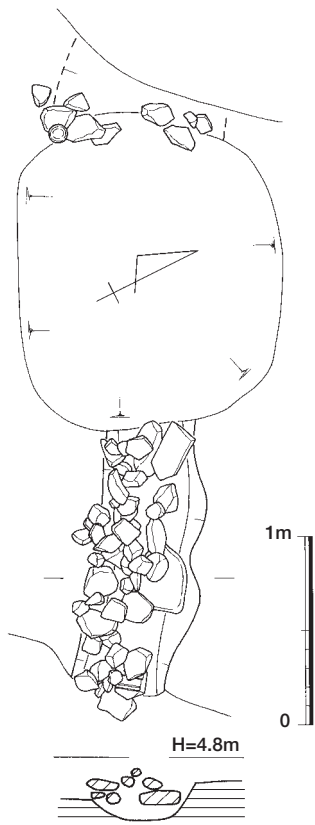


Fig.21 SD-202東側遺構実測図(1/40)

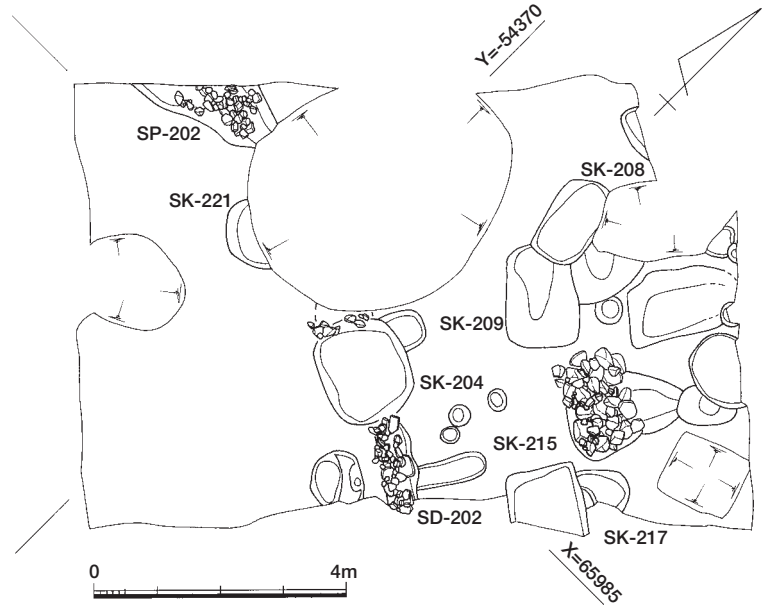


Fig.19 第2面遺構配置図(1/120)

### 3. 第2面の調査

第2面では溝状遺構、土坑、ピットなどを検出している。土坑のなかには積み石を伴う墓葬的な遺構も含まれる。なお調査区南側のSD-202以南は土質がやや軟弱で安定せず、明瞭な遺構はほとんど検出できなかった。

#### (1) 溝状遺構

##### SD-202 (Fig.20・21)

調査区中央を西北西-東南東方向に走る溝で、調査区内で現代の井戸(SE-128)、SK-204に切られ、東西2ヶ所に大きく分かれる。東側部分は検出時で幅50cm、深さ20cmで、溝内に10~20cmの自然石が詰まった状態で検出される。西側は80cm~1m幅の掘方が検出され、その中で50~70cmの幅で石材が集中する部分がある。東西の溝の方向はわずかにずれて

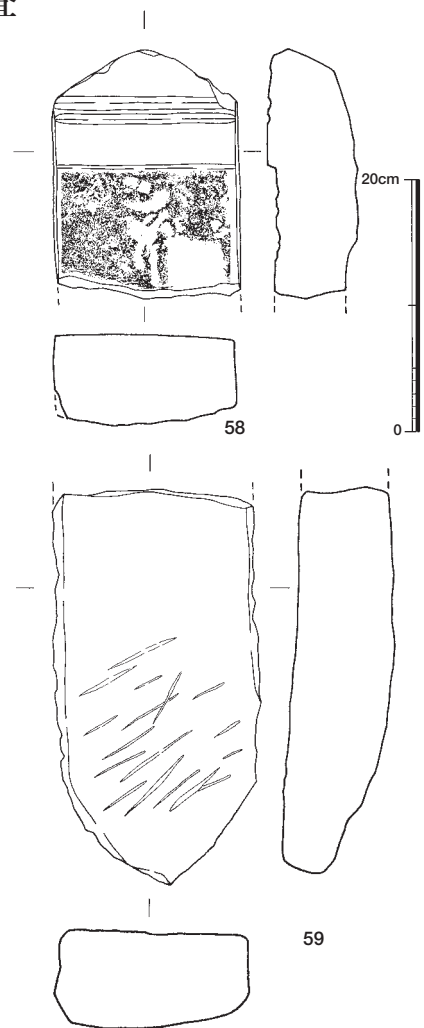


Fig.22 SD-202出土遺物実測図1(1/6)

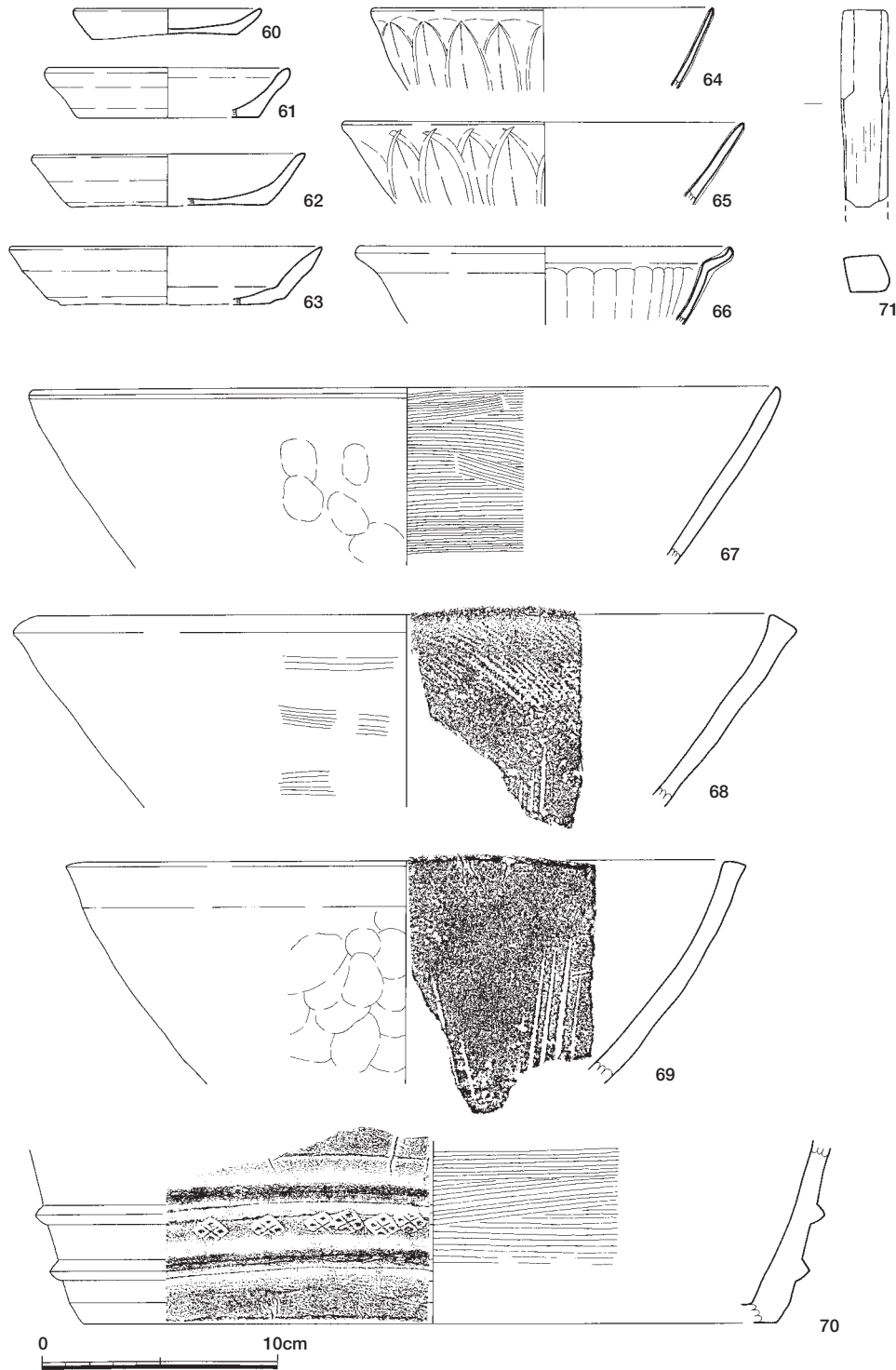


Fig.23 SD-202出土遺物実測図2 (1 / 3)

は粗割りに近い状態で、凹凸が残る。58と59が同一個体かどうかは現段階では不明。

60は土師器皿。底部は糸切りで、体部外面と内面は横ナデ。61~63は土師器杯。61はやや小形で、底部は糸切り、体部は直線的に開き、端部はやや太く丸める。底部は糸切りで体部外面と内面は横ナデ。62は体部が直線的に開き、底部は糸切りで体部外面と内面は横ナデ。63は体部器壁が厚く作られ、体部と底部の境界の粘土返りをナデで仕上げる。底部は糸切りで体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。64~66は青磁碗。64はやや丸味を持つ体部で、外面に片彫りによる鎬蓮弁文を施文する。釉は緑色ガ

いるが、全体としては同一の遺構としてほぼ直線的に延びていくものと考えられる。

出土遺物 (Fig.22・23)

58・59は板碑。

砂岩製で、いずれもSD-202東側部分で出土している。58は板碑頭部で、幅15.0cm、残存高20.0cm、

厚さ7.3cm。三角形の頭部直下に横方向の沈線を2本刻み、その下に段を設ける。表面と横面は平滑で、裏面は粗割りの状態で凹凸が目立つ。

碑面に刻まれた種子は「バク」(釈迦如来)とみられるが、刻字付近の凹凸が大きく、文字は不明瞭である。

59は板碑下部で、幅8.0cm、残存高31.6cm、厚さ

8.0cm。表面は加工時の鑿痕が多数残る。横面や裏面

ラス質で厚く施釉される。65は直線的に開く体部で、外面に片彫りによる鑄蓮弁文を施文している。釉は暗緑色ガラス質で透明。66は口縁部を外反させ、端部は上方に尖る。内面は縦に削って花卉状にする。釉は緑色ガラス質で半透明を呈し、厚く施釉される。67は土師器の鍋。体部は直線的に開き、口縁は素口縁である。外面には煤が厚く付着して黒色を呈する。内面は横ハケ、外面には指圧痕が残る。68・69は播鉢。68は須恵質で、内面は4本1組の播目が切られる。外面は横ハケ後、ナデ。69は胎土が灰赤褐色で硬質を呈し、備前系の可能性が高い。体部はやや丸味を持ち、素口縁で上面はナデで面取りする。内面に4本1組の播り目を施し、外面はナデで指圧痕が多数残る。70は瓦質の火鉢で、外面は2本の突帯と菱形のスタンプを施し、内面は横ハケ。

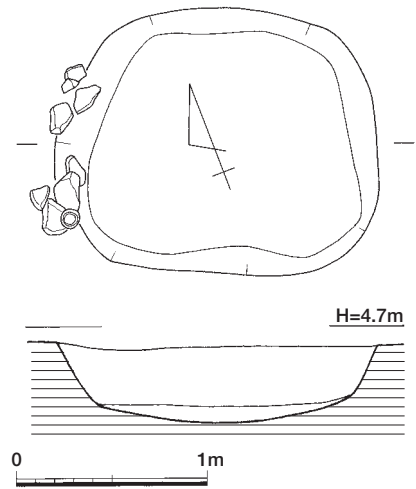


Fig.24 SK-204遺構実測図(1/40)

71は滑石製品で、棒状を呈する製品の一部とみられる。先端4cmの部分は面取りされ、断面は8角形を呈する。下半部分は断面は4角形を呈する。製品の性格や用途は不明。

(2) 土坑

SK-204 (Fig.24)

調査区ほぼ中央部で検出した土坑で、SD-202を切る。平面形は隅丸長方形で、遺構軸線はSD-202とほぼ平行する。断面形は箱形で、床面はやや凹み、壁は緩く開いて立ち上がる。遺構覆土は暗褐色土で、遺構面の土質と大差ない。

出土遺物 (Fig.25)

72~77は土師器皿。72は小形で器高が高いもので、口径6.6cm。口縁部の1ヶ所にのみ黒斑があり、灯明皿に使用されたとみられる。内外面とも横ナデで底部は変則的な糸切り。73も72と同形でやや大きめ。底部糸切り、体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。74・75は全体に扁平な器形で底部は糸切り、内外面は横ナデ。76も72と同型とみられる。底部は糸切りで、内外面は横

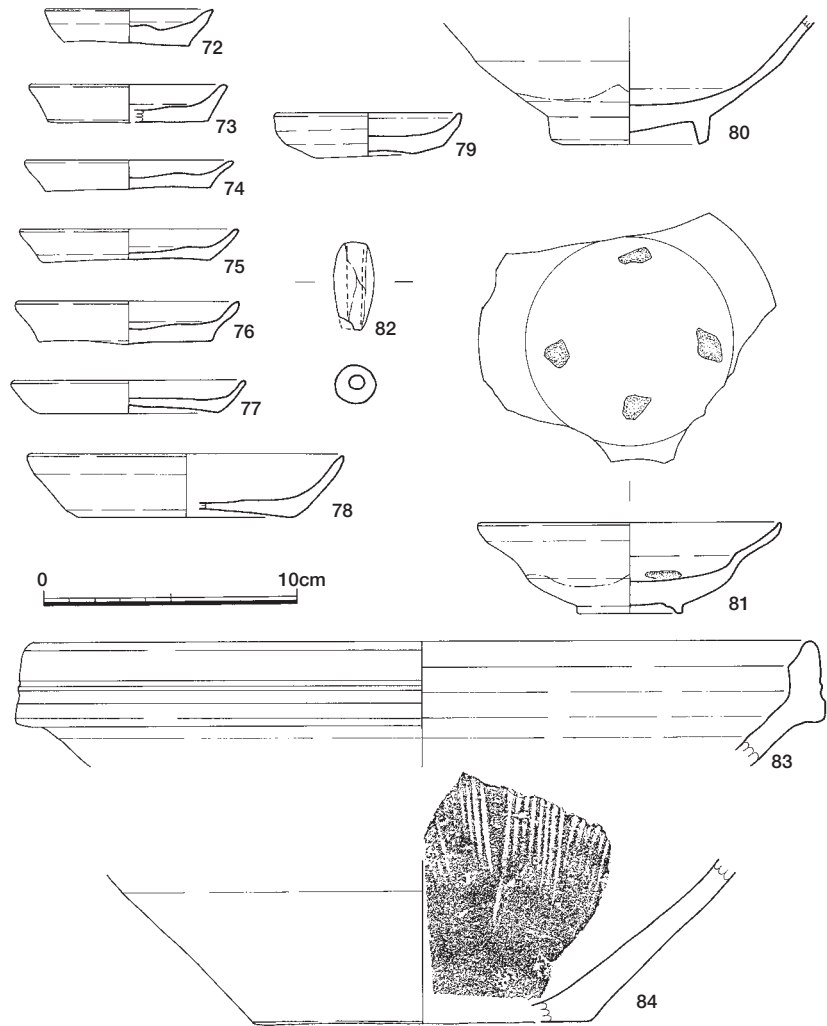


Fig.25 SK-204出土遺物実測図(1/3)

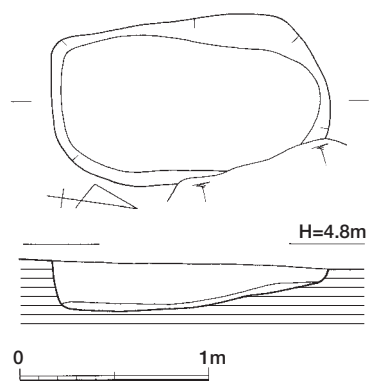


Fig.26 SK-208遺構実測図(1/40)

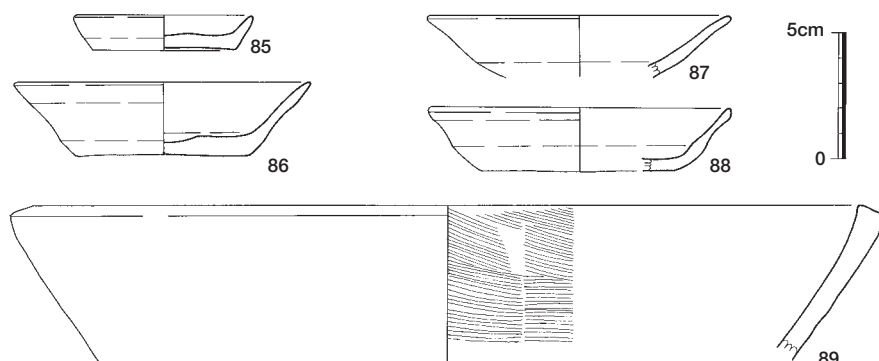


Fig.27 SK-208出土遺物実測図 (1/3)

はほぼ南北を向き、長さ1.5m、幅0.9mを測る。床面は北から南に緩く傾斜し、壁は床からほぼ垂直に立ち上がる。遺構の形状からみて土壙墓の可能性が高い。

出土遺物 (Fig.27)

85は小形で器高が高いもので、口径7.0cm。底部は糸切りで板状痕が残る。86~88は土師器坏。86は体部が直線的に開く。底部糸切りで、体部内外面は横ナデ、見込み中心部はナデ上げ。87は体部が外反しながら大きく開くもの。88は底部から丸く立ち上がり、口縁が軽く外反する。底部は糸切りで、体部内外面は横ナデ。89は瓦質の鉢で、胎土は薄灰色でやや軟質。外面はナデ、内面は横ハケで、端部は横ナデで面取りする。

SK-209 (Fig.28)

調査区北東側で検出した土坑で、北側をSK-208に切られる。遺構軸線はSD-202の方向に近い。平面形は隅丸長方形で、断面は鉢形を呈し、東壁は緩く開いて立ち上がる。床面は不整形で、壁面も緩い凹凸がある。

出土遺物 (Fig.29)

90は陶器鉢。胎土は須恵質で、明青灰色を呈し緻密。口縁は断面三角形状で、口縁上面に砂目がつく。内面

ナデ。77は底部と体部の屈曲が甘く、底部は糸切りで板状痕が残る。体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。78は土師器坏で、底部は糸切り、体部は緩く開く。体部内外面は横ナデ、見込み中心部はナデ。

79は青磁皿。底部はやや上げ底で、体部は丸く立ち上がる。釉は緑色ガラス質で透明。内面のみ施釉しており、外面と底部は露胎。80・81は青磁碗。80は釉は薄緑色ガラス質で透明。見込みは輪状に釉を掻き取る。81は浅い体部に屈曲する口縁をもつ。内面に4ヶ所の目痕がつく。畳付に目痕はない。釉は灰緑色ガラス質で半透明。82は土錘。全体に寸胴な形である。83・84は陶器鉢で、別個体。いずれも備前系とみられ、胎土は赤褐色で緻密。83は口縁が屈曲して

立ち上がり、外面に2条の沈線が入る。84は内面に8条1組の挿り目を確認できる。

SK-208 (Fig.26)

調査区北東側で検出された土坑で、一部をSK-118に切られる。平面形は楕円形に近い隅丸長方形で遺構軸線

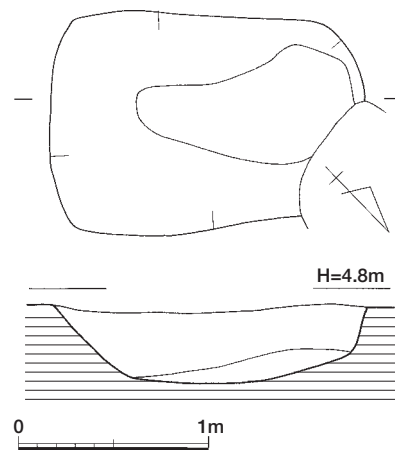


Fig.28 SK-209遺構実測図(1/40)

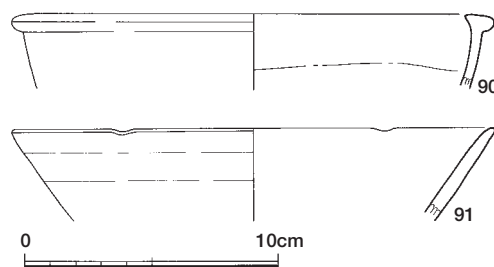


Fig.29 SK-209出土遺物実測図 (1/3)

に薄緑色の釉が施される。91は青磁碗。釉は薄緑色ガラス質で、厚く施釉される。口縁端部には輪花がある。

**SK-212 (Fig.30)**

調査区北東側で検出された土坑で、東側は調査区外に及ぶ。平面形は隅丸長方形に近い不整形で、断面は箱形を呈する。床面はほぼ平坦で、壁はやや開き気味に立ち上がる。覆土は暗褐色で、遺構面とは明瞭に区別される。

**出土遺物 (Fig.31)**

92・93は土師器皿。92は体部は丸味をもち、底部と体部の境界は粘土返りがつく。底部は糸切り、体部外面と内面は横ナデ。93は体部が高く立ち上がり、底部は糸切りで板状痕が残る。体部外面と内面は横ナデ。94は土師器鍋。口縁端部は屈曲して外反する。外面には煤が付着し、縦ハケ目痕が残る。内面と口縁上端は横ナデ。95は基石。黒色で光沢を帯びる。

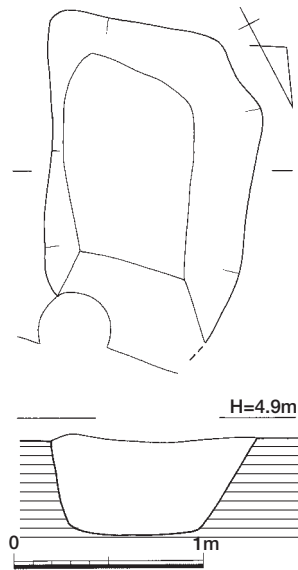


Fig.30 SK-212遺構実測図(1/40)

**SK-215 (Fig.32)**

調査区東側で検出された土坑で、土坑上部に積石をもつ。遺構軸線はSD-202の方向とほぼ同一である。積石は長さ1.5m、幅1.1mの範囲で積まれており、検出面から20cmの高さに積まれている。石材は20～

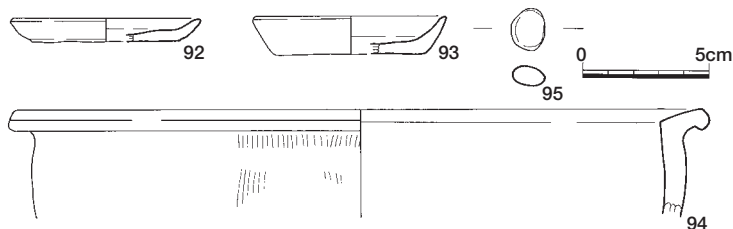


Fig.31 SK-215出土遺物実測図 (1/3)

30cm大で、自然石を粗割りしたものである。土坑は不整形で、壁、床面には緩い凹凸が目立つ。土坑内にも石材が若干落ち込んでいる。遺構の構造からみて、上部に標石をもつ土壌墓と考えられる。

**出土遺物 (Fig.33)**

96は青磁碗。口縁は外反し、全体に扁平な形になるとみられる。見込みに段をもつ。釉は薄青色、ガラス質で半透明。厚く施釉される。

**SK-217 (Fig.34)**

調査区東側で検出された土坑で、遺構軸線はSD-202の方向とほぼ同一になるとみられる。平面形は長方形になると考えられ、床面は平坦で壁は緩く開く。遺構検出面からの深さが浅く、検出段階でかなり削平されているとみられる。

遺構内からの出土遺物は少量で、小片が多い。土師器、陶磁器破片が確認できるが、図示できるものはない。

**SK-221 (Fig.35)**

調査区ほぼ中央で検出された土坑で、北側の大部分を

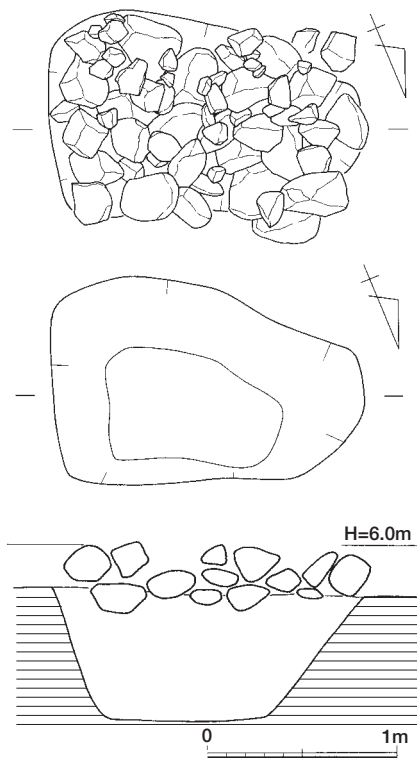


Fig.32 SK-215遺構実測図(1/40)

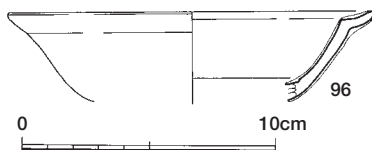


Fig.33 SK-215出土遺物実測図(1/3)



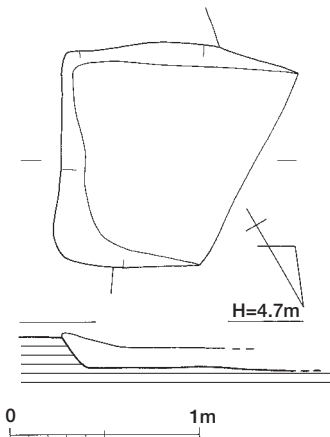


Fig.34 SK-217遺構実測図(1/40)

SE-128に切られている。平面形は半円形を呈し、床面はほぼ平坦で、壁はゆるく立ち上がる。

出土遺物 (Fig.36)

97は土師器皿。扁平な形態で、体部は低く開く。底部は糸切り、体部外面と内面は横ナデ。98は土師器坏。底部と体部の境界は不明瞭で、丸く立ち上がる。底部は糸切りで板状痕が残り、体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。

#### 4. 第3面の調査

(1) 土坑・土壙墓

SK-301 (Fig.38)

調査区東側で検出した土坑で北側は調査区外に及ぶ。北側が南側に比べて1段低くなっており、楕円形と方形の2基の土坑を重複して検出した可能性が高い。南側は半楕円形で、床面はほぼ平坦で壁は緩く立ち上がる。北側は長方形で床面は平坦で壁は緩く立ち上がる。

出土遺物 (Fig.39)

99は土師器坏。体部が高く立ち上がる形で、底部は糸切り、体部外面と内面は横ナデ。100は白磁碗。体部は直線的に開き、口縁端部は尖りながら軽く外反する。101は青磁碗。体部は直線的に開き、口縁は素口縁。外面は鎬蓮弁文を彫る。102は瓦器鉢。胎土は須恵質で薄灰色を呈し、緻密。口縁に注口を1ヶ所設け、外面は横ハケが残る。内面は剥落がひどく詳細不明。

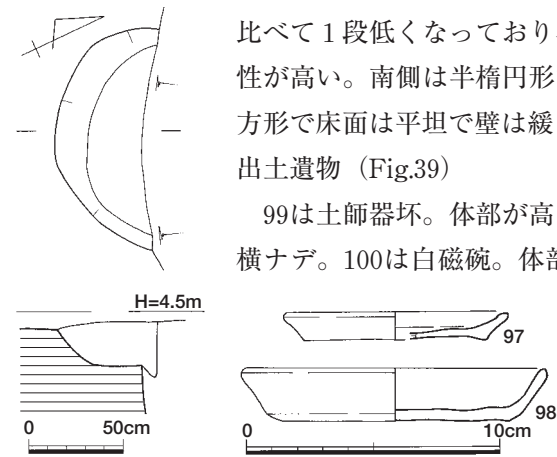


Fig.35 SK-221遺構実測図(1/40) Fig.36 SK-221出土遺物実測図(1/3)

SK-304 (Fig.40)

調査区北側で検出した土坑で、平面形は方形を呈する。床面は凹み、壁は緩く開き気味に立ち上がるなど全体に整わない掘方である感じを受けるが、遺構軸線は他の遺構と対応しており、規格性を持った遺構と見られる。

出土遺物 (Fig.41)

SK-304 (Fig.40)

103~105は白磁碗で、いずれも口縁部の釉を剥ぐ。103は直線的に開く体部で口縁が軽く外反する。釉は薄灰白色ガラス質。104はやや丸味を持つ体部で見込みに段をつける。釉は白色ガラス質。105は大型で、体部は直線的に立ち上がる。釉は薄灰色ガラス質。106・107は青磁碗。106は口縁が強く外反する。外面は丸彫り後、線書きによる鎬蓮弁文を施文する。釉は青緑色ガラス質。107は口縁が外反し、体部は直立する。内外面とも

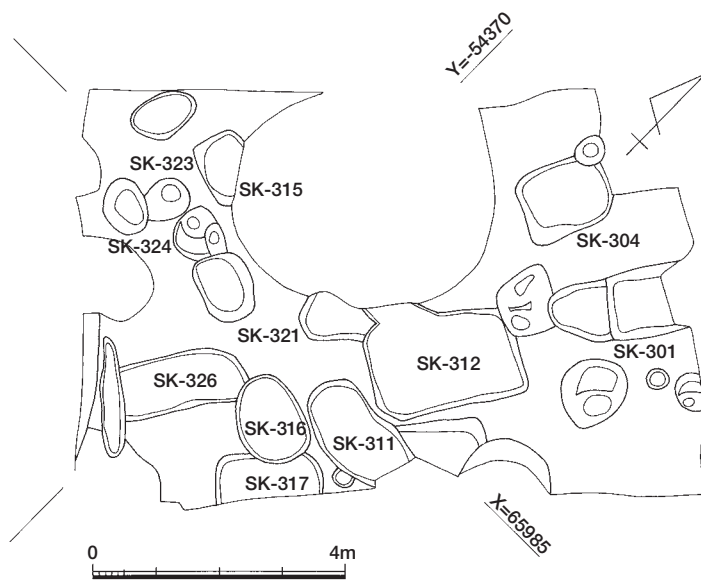


Fig.37 第3面遺構配置図(1/120)

素文。釉は緑色ガラス質で厚く施釉される。

**SK-311 (Fig.42)**

調査区東側で検出された土坑で、遺構東側は調査区外に及ぶ。平面形は楕円形に近い隅丸長方形になるとみられ、小口部分は完全に丸くなる。床面はほぼ平坦で、壁は緩く立ち上がるとみられるが、検出時でかなり削平され、壁の残りは悪い。

**出土遺物 (Fig.43)**

108~110は土師器皿。108は底部と体部の境界が丸く、全体に丸味を帯びる。底部は糸切り、体部外面と内面は横ナデ。109は体部が直線的に開き、底部は糸切り、体部外面と内面は横ナデ。110は扁平で底部は糸切り、体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。111は陶器皿。胎土は赤褐色で、備前系とみられる。体部は直線的に開き、外面は横ナデ、内面はナデ。112・113は青磁碗。釉は青緑色半透明で厚く施釉される。豊付は露

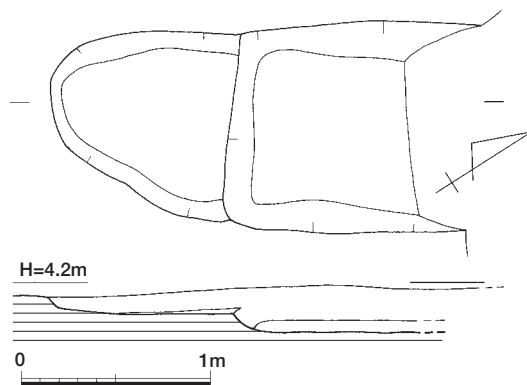


Fig.38 SK-301遺構実測図 (1/40)

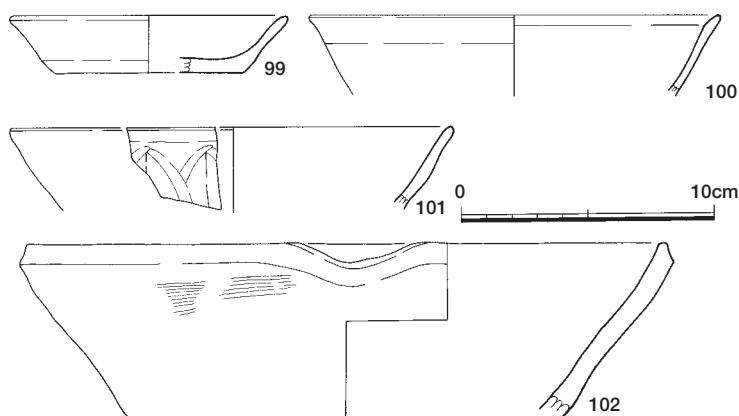


Fig.39 SK-301出土遺物実測図 (1/3)

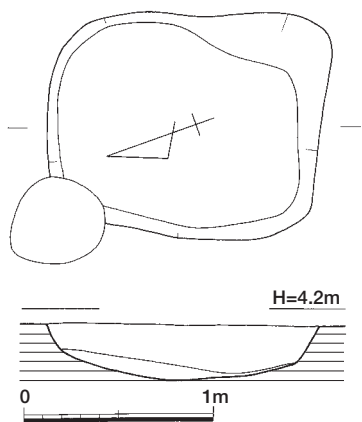


Fig.40 SK-304遺構実測図(1/40)

胎。113は釉は緑色透明で高台内に砂目痕あり。114は白磁碗で、口縁部の釉を剥ぐ。口縁部は軽く外反し、細く尖る。釉は白色半透明ガラス質。115は陶器碗。口縁は折り返して外反させる。外面は露胎で横ナデ、内面は褐色釉を施釉する。

**SK-312 (Fig.44)**

調査区中央で検出された土坑。西側を溝に切られるが、溝との前後関係は不明。平面形は長方形で、床面は緩く凹凸をもち南側に傾斜する。壁は緩く開くが、検出段階で上部をかなり削平されていて、詳細は不明。

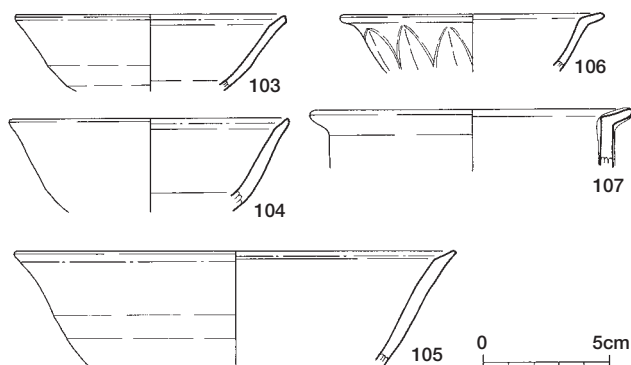


Fig.41 SK-304出土遺物実測図 (1/3)

**出土遺物 (Fig.45)**

116は土師器皿。扁平な形で、底部は糸切り、体部外面と内面は横ナデ。117・118は白磁皿で、口縁部の釉を剥ぐ。118は器高が高く、体部は直線的に開く。釉は薄灰白色半透明。119は白磁碗。口縁部の釉を剥ぐ。体部は丸く、口縁部は軽く外反する。120・121は青磁碗。120は片彫りが施され、蓮弁文を意図したものとみられる。釉は薄青色ガラス質で透明。121はやや丸味をもつ体部で、素口

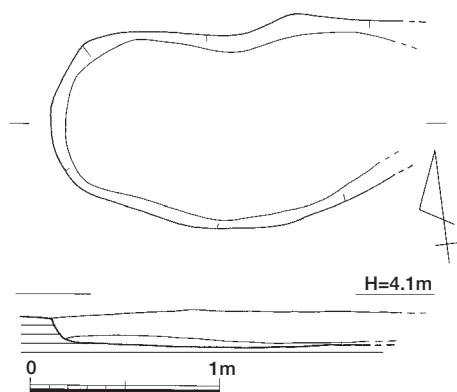


Fig.42 SK-311遺構実測図 (1/40)

縁。外面には片彫りで鑄蓮弁文を施文するが、やや下手。122は陶器壺。褐色釉で、口縁は短く直立する。体部は肩が張らず、丸くおさまる。123は石鍋破片。口縁下に突帯を削り出す。外面は斜め方向のケズリ、内面は横方向ケズリ。

**SK-315 (Fig.46)**

調査区西側で検出された土坑で、北側はSE-128に切られる。平面形は隅丸長方形とみられ、床面は平坦で壁は緩く開く。かなり削平されているが、土壙墓と考えられる。

出土遺物 (Fig.47)

124は土師器皿。底部は糸切りで、底部と体部の境界に粘土返りがつき、体部は丸く立つ。体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。126は青磁皿。口縁は屈曲して外反し、端部は直立する。釉は厚く施釉される。

**SK-316 (Fig.48)**

調査区南東側で検出された土坑。平面形は隅丸長方形で、床面は平坦で壁は直に立つ。かなり削平されているが、土壙墓と考えられる。

出土遺物 (Fig.49)

126は土師器皿。底部は糸切りで、体部は丸く開く。体部外面と内面は横ナデ。127・128は白磁碗でいずれも口縁部の釉を剥ぎ、口縁端部は削って面取りする。127は体部が直線的に開き、口縁は軽く曲がる。128は体部は丸味を帯びる。129は青磁碗で、体部は丸味を帯び、素口縁。外面には片彫りによる細めの鑄蓮弁文を施文する。130は土錘で、細長く小さなタイプのものである。

**SK-317 (Fig.50)**

調査区南東側で検出された土坑で、SK-316に切られ、遺構東側は調査区外に及ぶ。平面形は長方形とみられ、SK-312と同規模の遺構とみられる。床面は平坦で、壁は直に立ち上がる。SK-312・317は規模、形状から方形竪穴土坑とみられる。

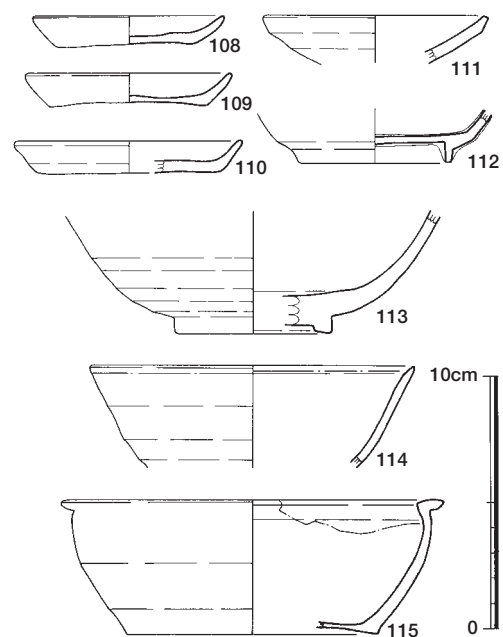


Fig.43 SK-311出土遺物実測図 (1/3)

出土遺物 (Fig.51)

131・132は土師器皿で、底部は糸切りで、体部内外面は横ナデ。見込みはナデ。131は扁平な形態、132は器高が高くなるもの。133は陶器の皿または小碗。胎土は暗赤褐色で備前系とみられる。体部は内湾気味に立ち上がり、内外面は横ナデ。134は青磁小碗。外面にヘラ描きで鑄蓮弁文を施文する。135は白磁碗。体部は大きく開き、口縁部の釉を剥ぎ取る。

**SK-321 (Fig.52)**

調査区ほぼ中央で検出した遺構。平面形は楕円形に近い隅丸長方形で、床面は平坦、壁は開き気味に立ち上がる。土壙墓と考えられる。

出土遺物 (Fig.53)

136・137は土師器皿。いずれも扁平な形で、底部は糸切りで板状痕が残り、体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。138・139は土師器坏で底部は糸切り、体部外面と内

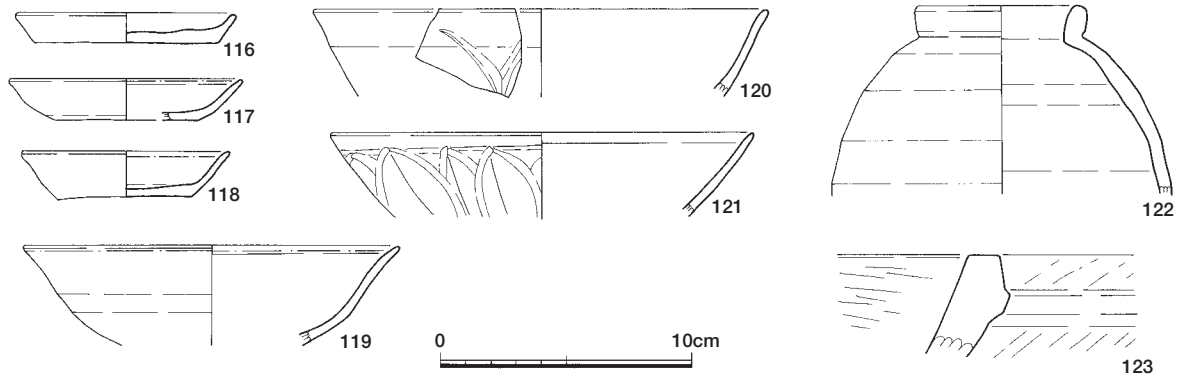


Fig.44 SK-312出土遺物実測図 (1/3)

面は横ナデ。138は体部が直立に近いもので、139は体部が大きく開くもの。140~142は青磁碗。140は丸彫り後、片彫りを施しており、蓮弁文のモチーフがかなり崩れた状態とみられる。釉は緑色透明で厚い。141は底部で、外面に蓮弁文と見られる片彫りをを施文し、釉は緑色透明で厚い。142も外面は蓮弁文を施文したとみられ、釉は薄緑色半透明で厚い。143は白磁碗で、口縁部の釉を剥ぐ。

**SK-323 (Fig.54)**

調査区西側で検出された土坑でSK-324に切られる。平面形は楕円形で、床面から大きく開く断面形を呈する。周囲の状況から、土壙墓の可能性が高い。

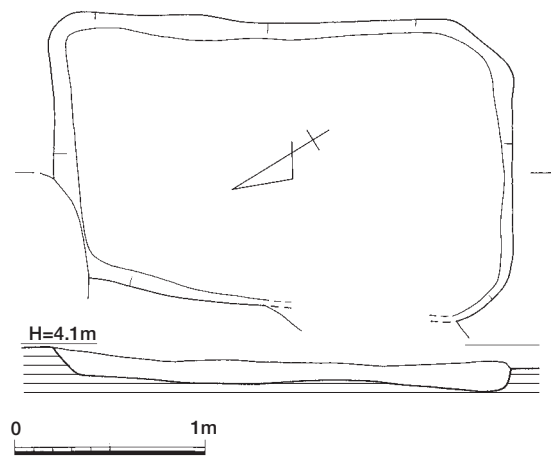


Fig.45 SK-312遺構実測図 (1/40)

**出土遺物 (Fig.56)**

144・145は土師器皿。144は扁平な形態で、体部は短く開く。底部は糸切りで板状痕が残る。体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。145は底部から体部にかけて丸く開く。底部は糸切りで板状痕が残る。体部外面と内面は横ナデ。146は白磁碗。口縁部は釉を剥ぐ。釉は灰白色~青白色で透明。147は青磁碗。外面には片彫りで鎬蓮弁文を施文する。釉は緑色透明で厚い。

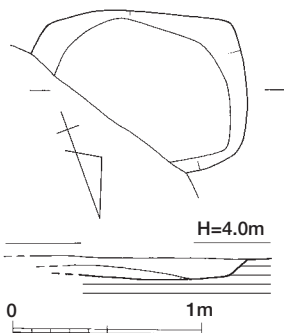


Fig.46 SK-315遺構実測図 (1/40)

**SK-324 (Fig.55)**

調査区西側で検出された遺構。平面形は楕円形で、断面は台形を呈し、壁は開き気味に立ちあがる。土壙墓と考えられる。

**出土遺物 (Fig.57)**

148は土師器皿。体部は大きく開く。底部は糸切り、体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。149・150は土師器杯。いずれも底部は糸切り、体部内外面は横ナデ。

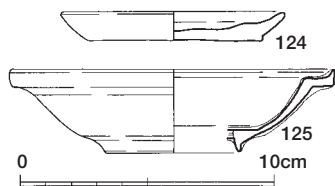


Fig.47 SK-315出土遺物実測図 (1/3)

**SK-326 (Fig.58)**

調査区南東側で検出された土坑で、東側は調査区外に及ぶ。平面形は長方形とみられ、床面は平坦である。大きく削平されているが、土壙墓と考えられる。

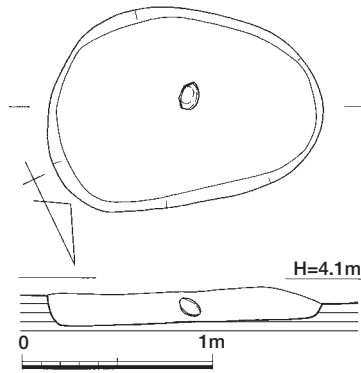


Fig.48 SK-316遺構実測図(1/40)

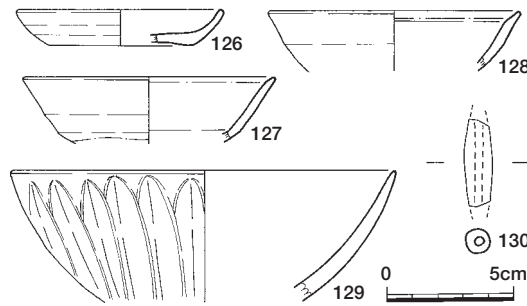


Fig.49 SK-316出土遺物実測図(1/3)

Fig.48 SK-316遺構実測図(1/40) 外周と内面は横ナデ。153は白磁坏。底径が小さく、器高が高いタイプで、底部は平底、露胎。体部外面は横ナデとヘラ削り、内面は横ナデで、口縁部の釉を剥ぐ。154~156は青磁碗。154は体部は丸く開き、内外面は無文。釉は薄緑色透明で厚く施釉され、高台内と畳付は露胎。155・156は外面に鎬蓮弁文を施文する。釉は緑色透明で厚い。

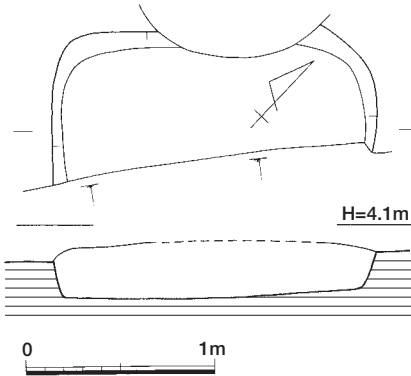


Fig.50 SK-317遺構実測図(1/40)

## 5. 第4面の調査

### (1) 井戸

#### SE-465 (Fig.61)

調査区北側で検出した井戸で、南側はSE-128に切られ、西側は調査区外に及ぶ。また、第4面掘削時では完掘できず、第5面で完掘、記録を行っている。上端掘方は緩い隅丸長方形になるとみられ、掘削時の工程に反映されたものであろう。井戸側は長径90cm 短径70cmの楕円形で、井戸底のレベルは標高1.0m前後である。湧水は、現在では井戸底からわずかにしみ

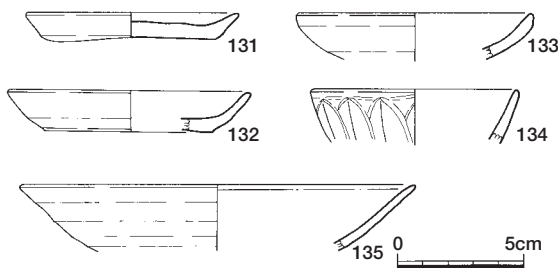


Fig.51 SK-317出土遺物実測図(1/3)

出す程度である。井戸枠は井戸最下部で木板が円形に並んで検出され、本来は桶枠だったとみられる。木材は遺存状態が悪く、取り上げられなかった。

#### 出土遺物 (Fig.62)

157~161は土師器皿。157は体部が緩く開くもので、底部は糸切りで板状痕が残る。体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。158は扁平なタイプで、底部は糸切り、

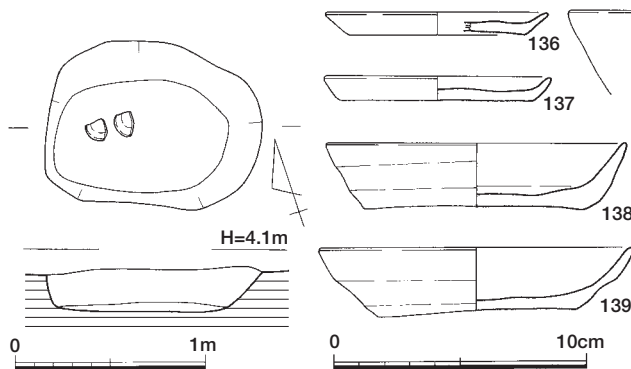


Fig.52 SK-321遺構実測図(1/40)

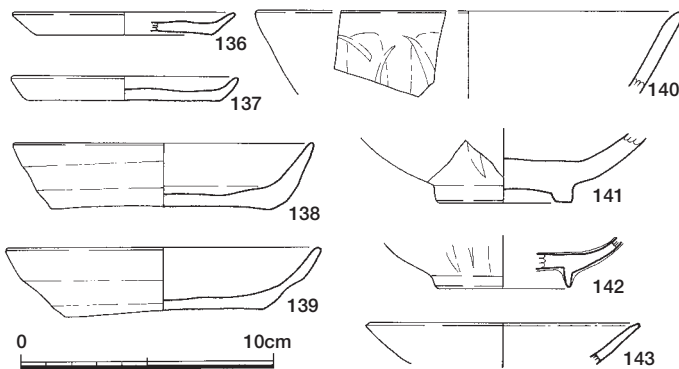


Fig.53 SK-321出土遺物実測図(1/3)

体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。159は器高が高いもので、底部は糸切り、体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。160は体部が外側に大きく開くもの。底

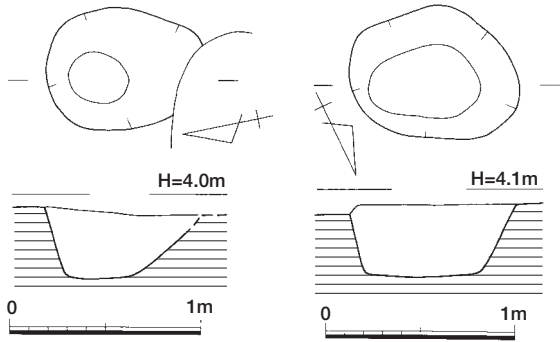


Fig.54 SK-323遺構  
実測図(1/40)

Fig.55 SK-324遺構  
実測図(1/40)

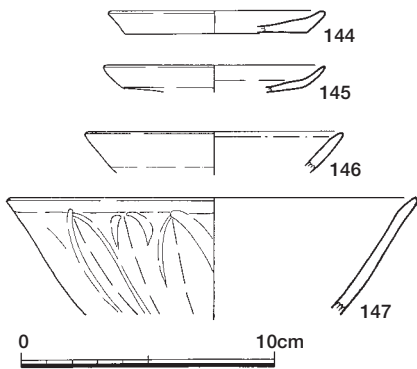


Fig.56 SK-323出土遺物実測図(1/3)

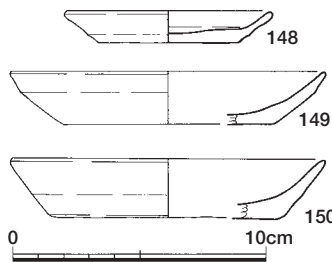


Fig.57 SK-324出土遺物  
実測図(1/3)

部は糸切り、体部内外面は横ナデ、161はやや古手で、全体に丸味を帯びる。底部はヘラ切りで板状痕が残る。体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。162~166は土師器坏。162~164は底部と体部の境界が甘いもので底部は糸切りで板状痕が残る。外面は横ナデ、内面は横ナデとナデ。164は胎土が他と異なり、赤みがかかる。165は体部が直線的に開く。底部は糸切りで板状痕が残る、体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。166は扁平な形で、器壁も薄め。底部は糸切りで、体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。167~171は青磁碗。167は口縁が外反し、外面は鎬蓮弁文を施文する。釉は薄青色で半透明。168は丸い体部に素口縁で、外面には鎬蓮弁文を施文。釉は緑色透明。169は外面に篋描文を施文し、見込みに牡丹とみられる花文を篋描きで施文する。釉は明緑色透明で高台内面と畳付を除いて施釉される。170は蛇目高台で畳付も施釉され、畳付に粘土、砂の付着物がある。釉は明緑色で不透明。越州窯製とみられる。171は見込みに篋描きで蓮花文を描く。釉は青緑色半透明で畳付以外に厚く施釉される。172は白磁皿。体部は大きく開き、口縁は軽く外反する。内面に篋描文を施文する。173・174は陶器播鉢で同一個体の可能性もある。内面に5条1組の播り目を施文する。175は陶器甕。外面に縦ハケ痕が残る。176は基石。黒で、全体に研磨され光沢がある。SK-212出土の基石とほぼ同大である。177は礫石とみられる。全体に自然面を利用している。

## (2) 土坑

### SK-419 (Fig.63)

調査区東端で検出された土坑で、大部分が調査区外に及び、遺構の全体像は不明である。床面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は暗褐色砂質土である。

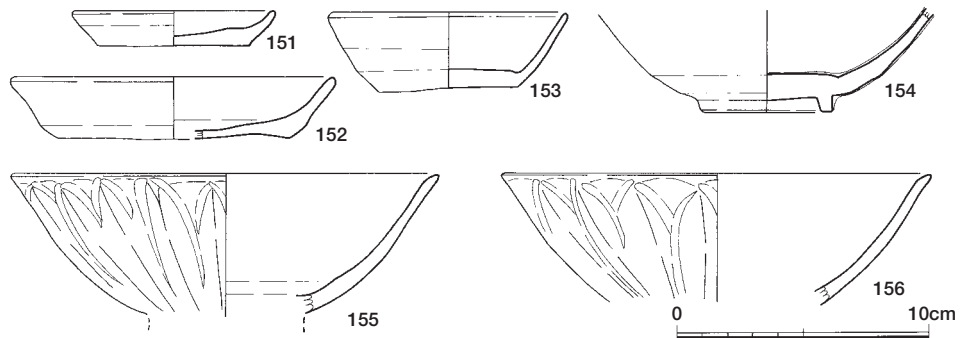


Fig.58 SK-326遺構実測図(1/40)

Fig.59 SK-326出土遺物実測図(1/3)

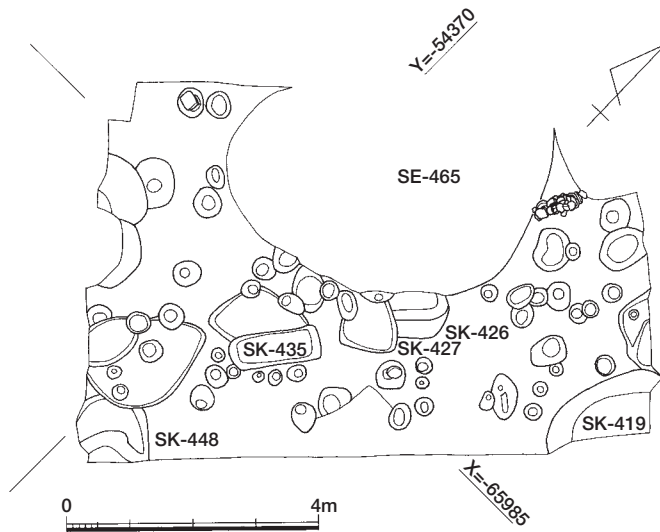


Fig.60 第4面遺構配置図 (1/120)

は図より小さくなるおそれがある。外面は横ミガキ、内面は丁寧なナデ。181は瓦器碗。外面は横ナデ、内面にコテ当て痕が残る。

**SK-427 (Fig.67)**

調査区中央で検出された土坑。小形で平面形は隅丸長方形に近い。床面は平坦で壁は開き気味に立ち上がるとみられる。大きく削平されていると推定される。

出土遺物 (Fig.68)

182・183は土師器皿。182は小形で器高が高いもの。183は扁平で体部が大きく開く。底部は糸切りで板状痕が残る、体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。184は白磁碗。体部はやや丸味をもち、口縁は軽く外反する。内面上部に段をもつ。

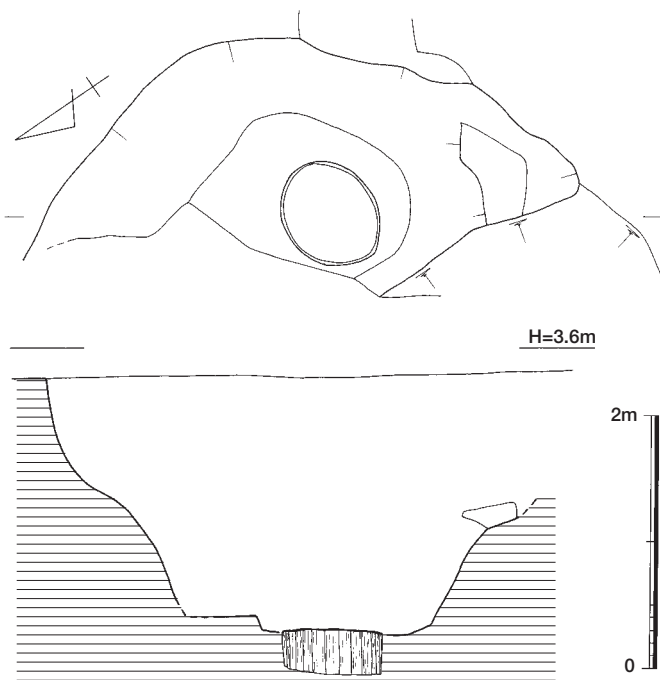


Fig.61 SE-465遺構実測図 (1/60)

出土遺物 (Fig.64)

178は土師器坏。底部は糸切りで板状痕が残る。体部は底部から丸く立ち上がる。体部内外面は横ナデ、見込みはナデ。179は白磁碗。玉縁状口縁で、体部は直線的に開く。

**SK-426 (Fig.65)**

調査区中央で検出された土坑で、西側をSE-465に切られ、南側をSK-427に切られており、遺構本来の形状は不明である。床面は平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。

出土遺物 (Fig.66)

180は土師器碗。小片で、実際の直径

**SK-435 (Fig.69)**

調査区中央で検出された土坑で、平面形は長方形で整った形状である。床面は平坦で、小口壁は開き気味に立ち上がり、他の壁は直立する。遺構覆土は黒褐色砂質土。遺構形状から見て、土壌墓の可能性が高い。出土遺物 (Fig.70)

185は青磁碗。内面に花卉状の文様が彫られる。全面施釉され、畳付のみ露胎。186・187は白磁碗。186は小碗で、口縁が軽く外反する。釉は薄緑色ガラス質でやや厚め。187は直線的に開くタイプで素口縁。釉は灰白色ガラス質。

**SK-448 (Fig.71)**

調査区南端で検出された土坑で、大部分が調査区外に及び、遺構の全体像は不明である。断面は2段掘り状で、床面は平坦と

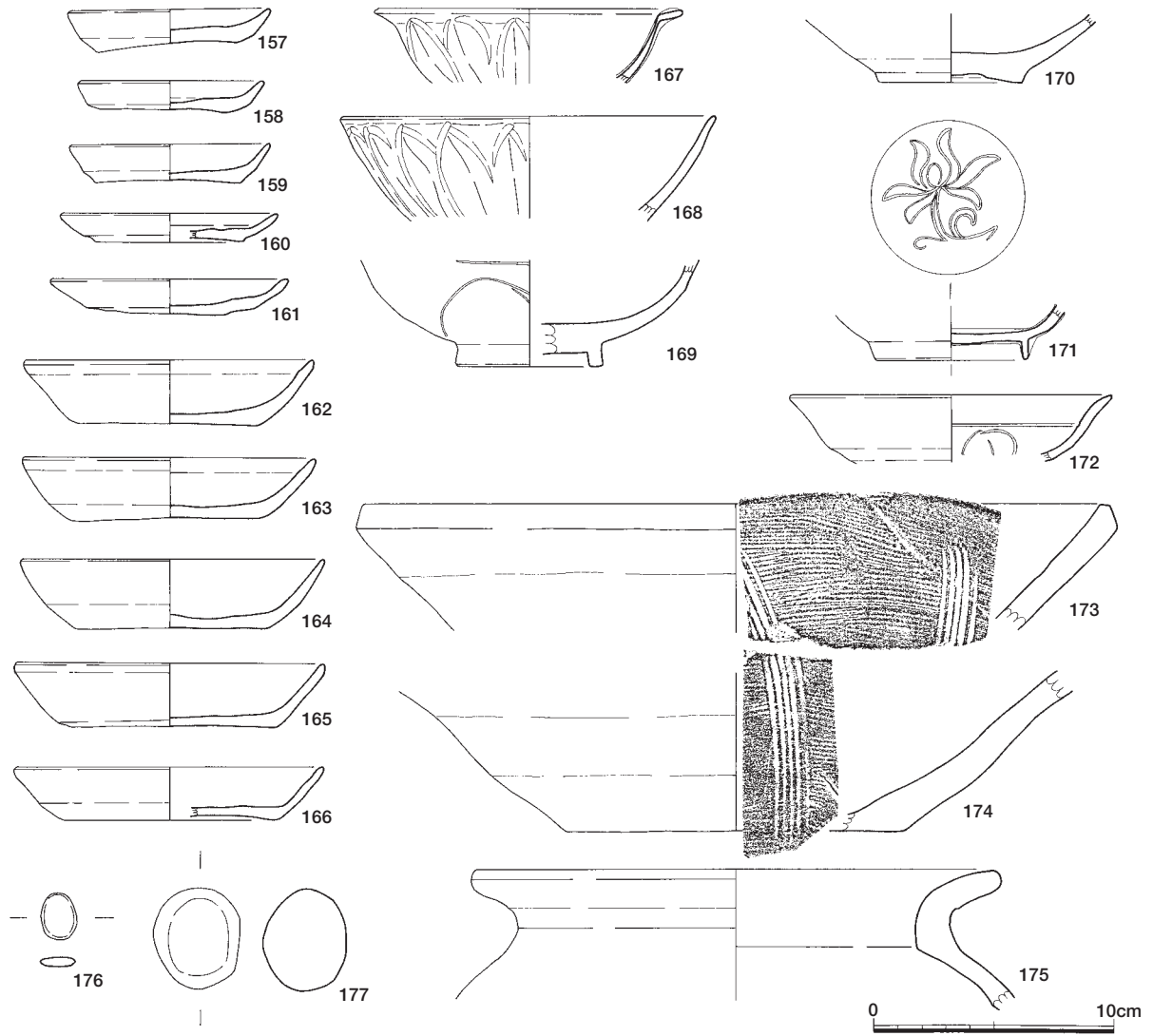


Fig.62 SE-465出土遺物実測図 (1 / 3)

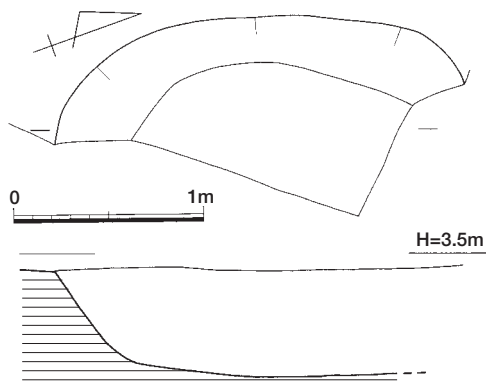


Fig.63 SK-419遺構実測図 (1 / 40)

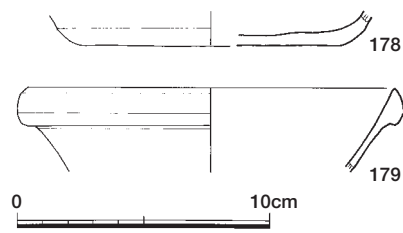


Fig.64 SK-419出土遺物実測図(1 / 3)

みられ、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は黒色砂質土である。

出土遺物 (Fig.72)

188~190は白磁碗。188は玉縁状口縁をもつ。189は直口する口縁で、釉が厚く施釉される。器壁は二次比熱を受け、荒れている。190は底部で見込みの釉を輪状に掻き取る。釉は薄緑色透明。



## 6. 第5面の調査

### (1) 井戸

#### SE-502 (Fig.74)

調査区東側で検出された井戸。西側をSE-518、SE-465に切られる。上端の平面形は隅丸長方形に近く、掘削時の工程に反映されたものであろう。井戸側は直径50cmの円形で、井戸底のレベルは標高1.2m前後である。湧水は現在ではほとんどみられない。井戸枠は井戸最下部で木板が一部井戸側に沿う形で検出され、本来は桶枠だったとみられる。木材は遺存状態が極めて悪く、取り上げられなかった。

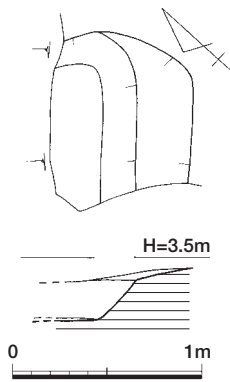


Fig.65 SK-426遺構実測図(1/40)

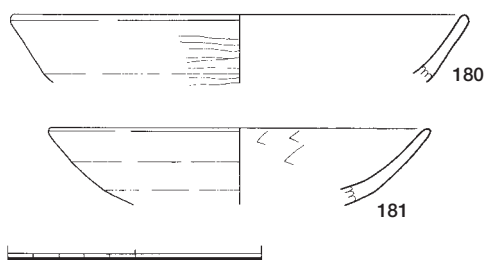


Fig.66 SK-426出土遺物実測図(1/3)

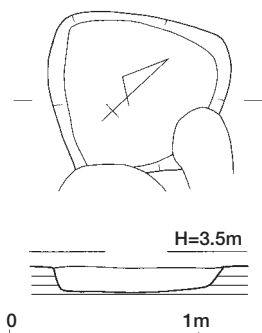


Fig.67 SK-427遺構実測図(1/40)

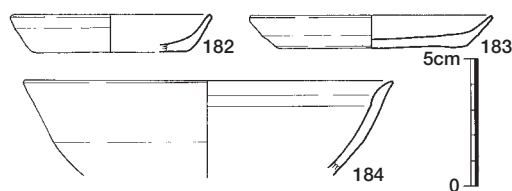


Fig.68 SK-427出土遺物実測図(1/3)

明緑色で発色にムラがある。204は陶器壺口縁部。外面に櫛描きで波状文を描く。須恵質で外面は黒く光沢があり、高麗陶器とみられる。205は土製品。ナデ・指押しで成形し、断面はX字を呈する。用途は不明だが、土錘の一種とも考えられる。206は土錘。小形で、表面は平滑。

### 出土遺物 (Fig.75)

192は土師器皿。底部はヘラ切り後ナデ、体部内外面は横ナデ、内面はナデ。193・194は土師器椀。胎土は明褐色で軟質。外面は横ナデとヘラ削り後横ミガキ。内面はナデ。193は口縁端部を面取りするなど瓦器と共通する。195~197は瓦器椀。195は外面は横ミガキ、内面は横方向分割ヘラミガキで、口縁端部内側を面取りする。196は外面は横ナデとヘラ削り後横ミガキ、内面は斜方向横ミガキで口縁端部外側を面取りする。197は外面は横ナデとヘラ削り後横ミガキ、内面は分割ヘラミガキで口縁端部外側を面取りする。198~201は白磁碗。198は玉縁状口縁をもち、体部は直線的に開く。釉は薄緑色透明。199は丸い体部で口縁は短く外反する。内面は白堆線で輪花をつくる。釉は薄緑色透明。200は体部が直線的に開き、見込みに段をもつ。釉は薄緑色透明。201は高台内に墨書を認めるが、判読不能。202・203は青磁碗でいずれも越州窯産とみられる。202は見込み、畳付に5ヶ所の目痕がつく。釉は緑色半透明で、畳付のみ露胎。胎土は灰色で褐色粒が混じる。

203はやや上げ底で、見込みに浅い段を持つ。胎土は灰色で黒色粒が混じる。釉は黄緑~

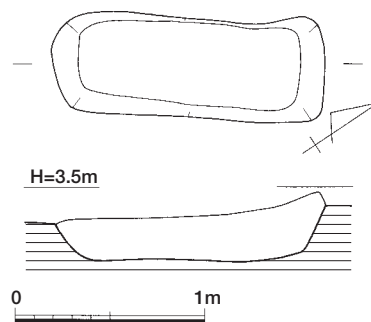


Fig.69 SK-435遺構実測図(1/40)

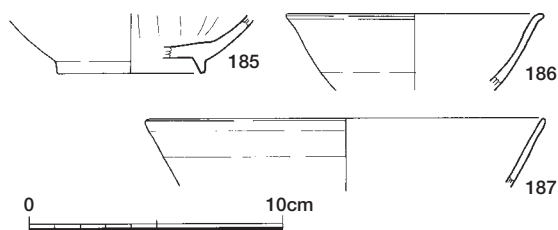


Fig.70 SK-435出土遺物実測図(1/3)

### SE-518 (Fig.76)

調査区北側で検出された土坑で、西側は調査区外に及び、南側はSE-465に切られていて、遺構の全体像はほとんど把握できない。井戸枠の一部が検出され、井戸枠径は60~80cmと推定される。

出土遺物 (Fig.77)

207は土師器坏。体部は直線的に開き、やや扁平。底部は糸切り、体部外面と内面はナデ。

(2) 土坑

### SK-514 (Fig.78)

調査区東側で検出した円形の遺構で、断面は円筒形を呈する。覆土は灰褐色砂質土。

出土遺物 (Fig.79) 208は土師器碗。丸底で、外面上部は横ナデ、下部はヘラ削り後ナデ。内面はナデ。209は土師器碗。内外面とも横ナデ。

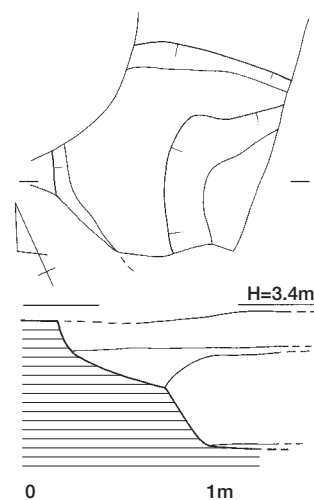


Fig.71 SK-448遺構実測図(1/40)

## 7. 動物遺存体

動物遺存体の同定には比較資料として独立行政法人奈良文化財研究所松井章氏所蔵の現生標本を使用させていただくとともに、多大なご教示を頂いた。第151次調査地点で出土した動物遺存体は1. 貝類、2. 魚類、3. 哺乳類で、

1. 貝類はアカニシの螺底部が1点出土した。推定殻高は8cm弱である。刃物痕・被熱痕はみられない。

2. 魚類はサメ類、フグ類、マダイが出土した。いずれも博多遺跡で多く見られる種である。

3. 哺乳類はイノシシ・シカの陸生哺乳類とイルカ・クジラ類などの海棲哺乳類が出土した。割合はイルカ・クジラ類の海棲哺乳類が多く、イノシシやシカなど同定できた資料のうちでは約8割が海棲哺乳類である。また陸生哺乳類の出土部位は頭蓋骨か四肢骨が多いが、イルカ・クジラ類の出土部位はほとんどが椎骨で次に肋骨が多く、下顎骨や四肢骨の割合は低い。

出土したイルカ・クジラ類の環椎などの椎骨や歯は大きさがいろいろあることから、小型のイルカ類から大型クジラ類まで複数種が含まれるものと思われる。特に030のSK-118から出土した尾椎は椎頭・椎窩共に未骨化ながら長さ20.1cm、関節面の長径12cm強を測る中型鯨類の骨である。(屋山洋)

## 8. 出土銭貨・銅製品

調査区内の各遺構面・遺構から計54点の銅銭が出土した。この銅銭について銘の判読を試みた結果、33点について銘を判読もしくはは

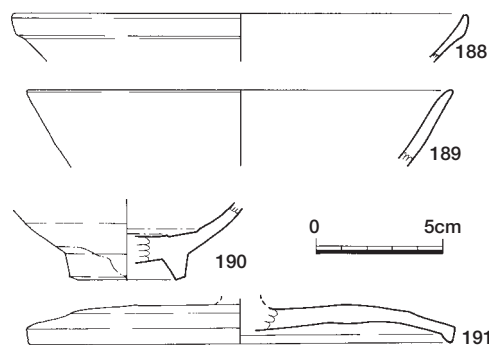


Fig.72 SK-448出土遺物実測図(1/3)

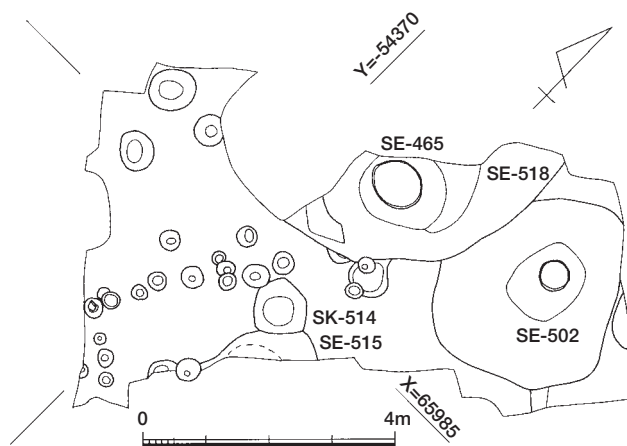


Fig.73 第5面遺構配置図(1/120)

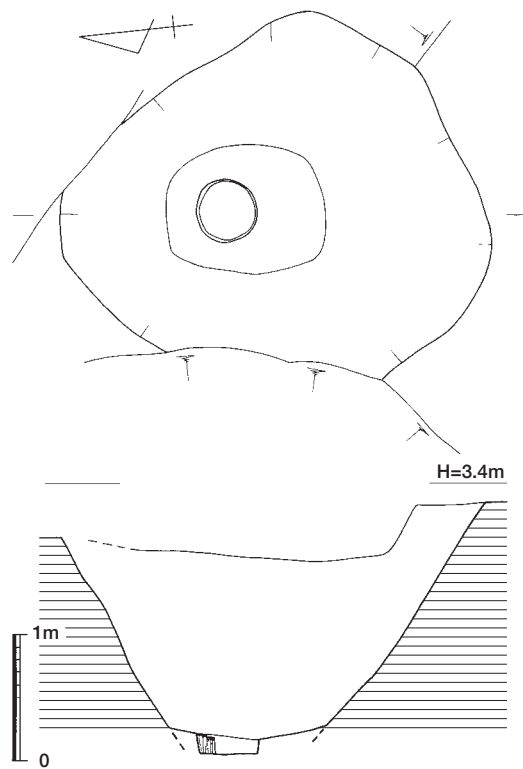


Fig.74 SE-502遺構実測図 (1/60)

推定できた。判読結果を tab. 1・2 にまとめているが、出土銭貨の傾向について、おおよそ以下のようなことがいえる。

銭貨からみた年代は第1面が江戸時代以降、第2面が1018年以降、第3面が1174年以降に比定できる。陶磁器から比定した各遺構面・遺構の年代観と、出土銭貨の年代とは矛盾しない。また各遺構面・遺構から出土した銭貨は北宋の時期のものが大半である。特に第2面以下は、陶磁器からみた実際の年代と銭貨の年代にかなり差がある。これは、北宋の時期に流入した銭貨が以後長期間にわたって流通していたことを示すものと考えられる。また第4・5面からの銭貨の出土がみられないが、これは当該時期にこの地点に銭貨が及ぶような施設が存在しなかったことを示すものであろうかとも考えられるが、これは推論の域を出ない。

また出土した銅製品のうち、2面上包含層から出土した銅装小刀は、柄部のみ遺存し、細かな菊

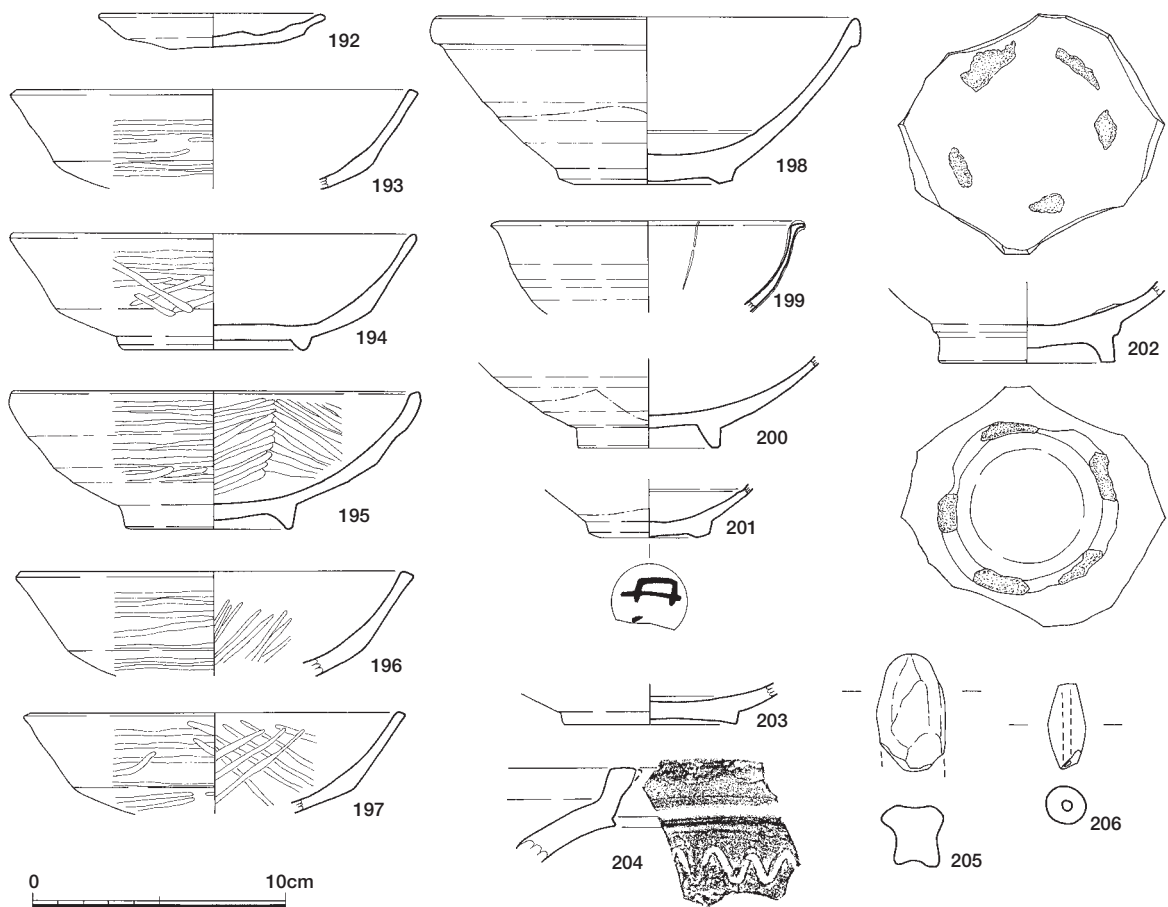


Fig.75 SE-502出土遺物実測図 (1/3)

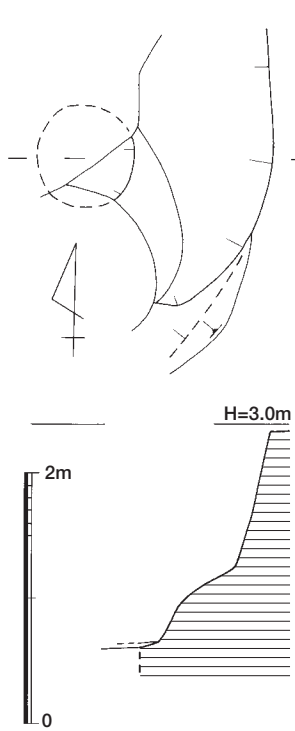


Fig.76 SE-518遺構実測図(1/40)

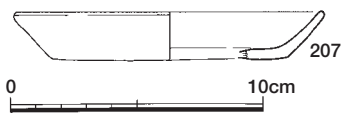


Fig.77 SE-518出土遺物実測図(1/3)

紋を打ち込んだ銅板で柄を巻いており、さらに円形の真鍮製装飾板3枚を、鈴を主成分とする物質で接着している。表面からは内部の菊紋は見えない。

表面に菊文の装飾が施された形で一度製品化された小刀がどのような理由で表装を変えたのか、興味深いところである。

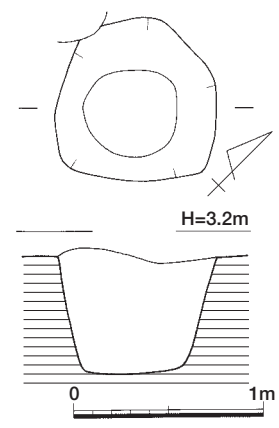


Fig.78 SK-514遺構実測図(1/40)

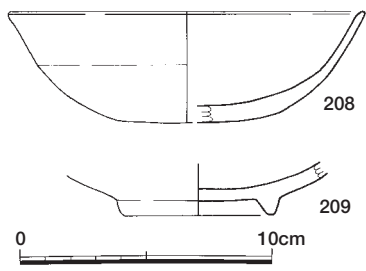


Fig.79 SK-514出土遺物実測図(1/3)

tab.1 出土動物骨一覧

| 地区  | 大分類         | 小分類 | 部位名      | 左右  | 部分1     | 部分2    | 成長度     | 切痕 | 火熱 | 備考   | 時代           |
|-----|-------------|-----|----------|-----|---------|--------|---------|----|----|------|--------------|
| 001 | 2面上包舎層      | 魚類  | 椎骨       |     |         |        |         |    |    | 遺存不良 | 16~17C初      |
| 002 | 2面上包舎層      | 魚類  | サメ類      |     | 1/3欠損   |        |         |    |    |      | 不明           |
| 003 | 2面上包舎層      | 鹿蹄類 | アカニシ     |     |         |        | 短長8cm 頭 | なし | 不明 |      | 16~17C初      |
| 004 | 2面上包舎層      | 哺乳類 | イノシシ・シカ  | 左   | 下面近位側欠損 |        | 骨化済み    | なし | 不明 |      | 16~17C初      |
| 005 | 2面上包舎層      | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 16~17C初      |
| 006 | 2面上包舎層      | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 16~17C初      |
| 007 | 2面上包舎層      | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 16~17C初      |
| 008 | 2面上包舎層      | 哺乳類 | 海獣類      |     |         |        |         |    |    |      | 16~17C初      |
| 009 | 2面上包舎層      | 哺乳類 | 海獣類      |     |         |        |         |    |    |      | 16~17C初      |
| 010 | SR464       | 哺乳類 | 肋骨片      |     |         |        |         |    |    |      | 12C後半        |
| 011 | SD202 (西)   | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 15~16C       |
| 012 | SE465       | 魚類  | フグ類      |     |         |        |         |    |    |      | 13C後半~14C初   |
| 013 | SE465       | 哺乳類 | 骨片       |     |         |        |         |    |    |      | 13C後半~14C初   |
| 014 | SE465       | 哺乳類 | 肋骨       |     |         |        |         |    |    |      | 13C後半~14C初   |
| 015 | SE465       | 哺乳類 | 頭蓋骨      |     |         |        |         |    |    |      | 13C後半~14C初   |
| 016 | SE465       | 哺乳類 | 肋骨       |     |         |        |         |    |    |      | 13C後半~14C初   |
| 017 | SE465       | 哺乳類 | イノシシ・シカ  |     |         |        |         |    |    |      | 13C後半~14C初   |
| 018 | SE465 井戸跡下層 | 哺乳類 | 海獣類      | 左?  | 近位部     | 表面遺存悪い | 近位端未骨化? | あり | なし |      | 氷現生ハナコンドウより大 |
| 019 | SK101       | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~後半     |
| 020 | SK103       | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~後半     |
| 021 | SK109       | 哺乳類 | イルカ類     |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~後半     |
| 022 | SK109       | 哺乳類 | イルカ類     |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~後半     |
| 023 | SK109       | 哺乳類 | 海獣       |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~後半     |
| 024 | SK114       | 哺乳類 | ネコ       | 右   | 近位部     |        |         |    |    |      | 17C前半~後半     |
| 025 | SK114       | 哺乳類 | 海獣       |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~後半     |
| 026 | SK117       | 魚類  | サメ類      |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 027 | SK117       | 哺乳類 | 海獣類      |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 028 | SK118 上層    | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 029 | SK118 上層    | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 030 | SK118 上層    | 哺乳類 | クジラ類     |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 031 | SK118 上層    | 哺乳類 | クジラ類     |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 032 | SK118 下層    | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 033 | SK118 下層    | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 034 | SK118 下層    | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 035 | SK118 下層    | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 036 | SK118 下層    | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 037 | SK118 下層    | 哺乳類 | イルカ類     |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 038 | SK118 下層    | 哺乳類 | イルカ類     |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 039 | SK119       | 魚類  |          |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 040 | SK119       | 魚類  | サメ類      |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 041 | SK119       | 哺乳類 | イルカ類     |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 042 | SK119       | 哺乳類 | イルカ類     |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 043 | SK119       | 哺乳類 | イルカ類     |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 044 | SK124       | 哺乳類 | イノシシ     | 左   |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 045 | SK124       | 哺乳類 | 海獣       |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 046 | SK125       | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 047 | SK126       | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 048 | SK127       | 魚類  | タイ類      | 右   |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 049 | SK127       | 哺乳類 | クジラ類     |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 050 | SK127       | 哺乳類 | 海獣?      |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 051 | SK204       | 魚類  | サメ類      |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 052 | SK204       | 魚類  | マダイ      |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 053 | SK204       | 哺乳類 | シカ       |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 054 | SK204       | 哺乳類 | 不明       |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 055 | SK208       | 哺乳類 | 不明       |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 056 | SK221       | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 15C~16C      |
| 057 | SK303       | 哺乳類 | 長骨片      |     |         |        |         |    |    |      | 13C後半~14C前半  |
| 058 | SK312       | 魚類  | サメ類      |     |         |        |         |    |    |      | 13C後半~14C前半  |
| 059 | SK316       | 魚類  | 不明       |     |         |        |         |    |    |      | 13C後半~14C前半  |
| 060 | SK319       | 哺乳類 | イルカ・クジラ類 |     |         |        |         |    |    |      | 13C後半~14C前半  |
| 061 | SK322       | 魚類  | タイ類      |     |         |        |         |    |    |      | 13C後半~14C前半  |
| 062 | SE115       | 魚類  | サメ類      |     |         |        |         |    |    |      | 近世~現代        |
| 063 | SE115       | 哺乳類 | イルカ類     |     |         |        |         |    |    |      | 近世~現代        |
| 064 | SE115       | 哺乳類 | イルカ類?    |     |         |        |         |    |    |      | 近世~現代        |
| 065 | SE115       | 哺乳類 | シカ       |     |         |        |         |    |    |      | 近世~現代        |
| 066 | 3面上包舎層      | 哺乳類 | イノシシ     | 左   |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 067 | 3面上包舎層      | 哺乳類 | イノシシ     | M 3 | 右       |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 068 | 3面上包舎層      | 哺乳類 | シカ       | 中位部 |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 069 | 3面上包舎層      | 哺乳類 | イルカ類     | 下層  |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 070 | 3面上包舎層      | 哺乳類 | イルカ類     |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 071 | 3面上包舎層      | 哺乳類 | イルカ類     |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |
| 072 | 3面上包舎層      | 哺乳類 | イルカ類     |     |         |        |         |    |    |      | 17C前半~18C    |

※奈良文化財研究所 松井研究室発掘標準と比較

### 第3章 小結

今回の調査では計5面の調査面を設定して調査を実施した。各遺構面の時代をまとめると、第1面が17世紀後半～18世紀、第2面が15世紀～16世紀、第3面が13世紀後半～14世紀前半、第4面が12世紀後半、第5面が12世紀前半頃と推定される。

各遺構面での遺構の増減、検出遺構の傾向をみると、第1面、第2面で検出された遺構が比較的少なくなっている。遺構面の土質により遺構検出が困難な側面もあるが、この時期には概して建物などの構造物の密度は薄かったと想定される。

第3面で検出された遺構の多くは、土壙墓と推定される楕円形、隅丸長方形の土坑である。この時期には墓地であった可能性が高い。近隣の聖福寺との関連を考える必要がある。この時期は本調査地点付近まで聖福寺の寺域内だった可能性が高い。第4面のピットの密度の高さは、小規模な建物が建て替えを繰り返しながら立ち並んでいた様相を示している。第4面で検出された土壙墓も本来は第3面に近い時期のものであると考えられる。さらに第4、5面で井戸遺構が検出されていることから、第4、5面の時期には周囲が生活の場であったものと考えられる。

第2面で検出したSD-202は、道路遺構に沿う排水溝的なもの、建物の区画溝的なものなどの機能が推定される。SD-202の方向は西隣の第74次調査で検出されている道路状遺構の方向とほぼ直交する角度で走るため、両者は強く関連していると推定できる。先に調査された74次、76次調査とあわせて、聖福寺一帯の地割はこの方向で強く規制され、各時代の遺構軸線もこの方向に沿ったものが多数存在するとみられる。

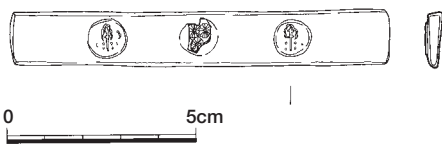


Fig.80 銅装小刀実測図 (1 / 2)

(補記) 調査実施中の平成17年3月20日午前10時53分に福岡県西方沖地震が発生し、市内各所に多大な被害をもたらした。辛い調査には最小限の被害でとどまったが、この地震は博多遺跡群のような遺構面が深く軟弱な遺跡調査の安全性について再考を促す契機となった。この場を借りて地震や水害に対する安全性に対して各方面にさらに注意を喚起し、自らにも猛省を促したい。

tab.2 出土銭貨一覧

| No. | 出土遺構       | 銭 銘    | 備 考   | No. | 出土遺構       | 銭 銘      | 備 考    | No. | 出土遺構        | 銭 銘      | 備 考   |
|-----|------------|--------|-------|-----|------------|----------|--------|-----|-------------|----------|-------|
| 1   | 1面 遺構面     | 太平通寶   |       | 19  | SD-202 (東) | □□××     | 2/4欠損  | 37  | SK-118 上層   | 寛永通寶     |       |
| 2   | 1面 遺構面     | □□□□   |       | 20  | SE-115     | 寛永通寶     |        | 38  | SK-124      | 開元通寶     |       |
| 3   | 1面 遺構面     | 寛永通寶   |       | 21  | SE-302     | 熙寧元寶     |        | 39  | SK-221      | 天禧通寶     |       |
| 4   | 1面 遺構面     | 嘉祐通寶   |       | 22  | SE-302     | (開)元(通)寶 | 2/4欠損  | 40  | SK-308      | 天□□寶     | 42と銹着 |
| 5   | 1面 遺構面     | (嘉)祐通寶 | 1/4欠損 | 23  | SE-465     | 皇宋通寶     |        | 41  | SK-308      | □□元寶     | 41と銹着 |
| 6   | 1面 遺構面     | □□□□   | 釘銹着   | 24  | SE-465     | 元豐通寶     |        | 42  | SK-308      | 淳熙元寶     |       |
| 7   | 1面 遺構面     | □×××   | 3/4欠損 | 25  | SE-465     | 皇宋通寶     |        | 43  | SK-308      | 治平元寶     |       |
| 8   | 3面 遺構面     | 皇宋通寶   |       | 26  | SE-465     | □□□□     |        | 44  | SK-308      | □□□□     |       |
| 9   | 3面 遺構面     | 元豐通寶   |       | 27  | SK-107     | 永樂通寶     |        | 45  | SK-308      | □□□□     |       |
| 10  | 3面 遺構面     | 天聖元寶   |       | 28  | SK-112     | 永樂通寶     |        | 46  | SK-308      | □□元寶     | 48と銹着 |
| 11  | 3面 遺構面     | □□××   | 2/4欠損 | 29  | SK-117     | 祥符元寶     |        | 47  | SK-308      | □□□□     | 47と銹着 |
| 12  | 3面 遺構面     | 元××寶   | 2/4欠損 | 30  | SK-117     | 淳化元寶     |        | 48  | SK-308      | (皇)宋(通)寶 | 2/4欠損 |
| 13  | 3面上包含層     | 紹聖元寶   | 土器付着  | 31  | SK-117     | 開元通寶     | 湯罌り不良か | 49  | SK-308      | □□××     | 2/4欠損 |
| 14  | 3面上包含層     | 咸平元寶   |       | 32  | SK-117     | □□元寶     |        | 50  | SK-309      | ××元寶     | 2/4欠損 |
| 15  | 3面上包含層     | 熙寧元寶   |       | 33  | SK-117     | □□□□     |        | 51  | SK-311      | 政和通寶     |       |
| 16  | 3面上包含層     | □□××   | 2/4欠損 | 34  | SK-117     | □□□□     |        | 52  | SK-313      | 紹聖元寶     |       |
| 17  | 3面上包含層     | □□××   | 2/4欠損 | 35  | SK-117     | □□××     | 2/4欠損  | 53  | カクラン(井戸)掘方中 | 元祐通寶     | 現代の井戸 |
| 18  | SD-202 (東) | 祥符元寶   |       | 36  | SK-118 下層  | 寛永(通)寶   | 1/4欠損  | 54  | カクラン(井戸)掘方中 | 寛永通寶     | 現代の井戸 |

□:判読不能 ×:欠損

tab.3 出土銭貨銭銘表

| 銭 銘  | 初鑄年  | 時代 | 枚数 | 銭 銘  | 初鑄年  | 時代 | 枚数 | 銭 銘  | 初鑄年  | 時代 | 枚数 |
|------|------|----|----|------|------|----|----|------|------|----|----|
| 開元通寶 | 621  | 唐  | 3  | 皇宋通寶 | 1039 | 北宋 | 4  | 政和通寶 | 1111 | 北宋 | 1  |
| 太平通寶 | 977  | 北宋 | 1  | 嘉祐通寶 | 1057 | 北宋 | 2  | 淳熙元寶 | 1174 | 南宋 | 1  |
| 淳化元寶 | 990  | 北宋 | 1  | 治平元寶 | 1064 | 北宋 | 1  | 永樂通寶 | 1368 | 明  | 2  |
| 咸平元寶 | 999  | 北宋 | 1  | 熙寧元寶 | 1068 | 北宋 | 2  | 寛永通寶 |      | 江戸 | 5  |
| 祥符元寶 | 1008 | 北宋 | 2  | 元豐通寶 | 1078 | 北宋 | 2  | 解読不能 |      |    | 12 |
| 天禧通寶 | 1018 | 北宋 | 1  | 元祐通寶 | 1093 | 北宋 | 1  | 欠損   |      |    | 9  |
| 天聖元寶 | 1023 | 北宋 | 1  | 紹聖元寶 | 1094 | 北宋 | 2  |      |      |    |    |

計54枚



(1) SK - 118 (東から)



(2) SK - 126 (北から)



(3) SD - 202西側 (北から)



(4) SK - 215 (西から)



(5) SE - 465 (北西から)



(6) SE - 502 (東から)

図版 2



(1) 第1面全景 (西から)



(2) 第2面全景 (西から)



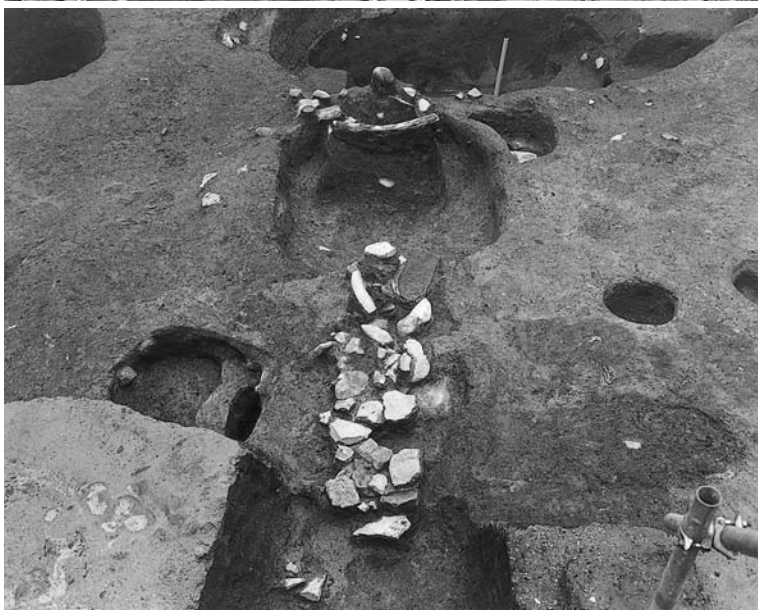
(3) 第3面全景 (西から)



(1) 第4面全景 (西から)



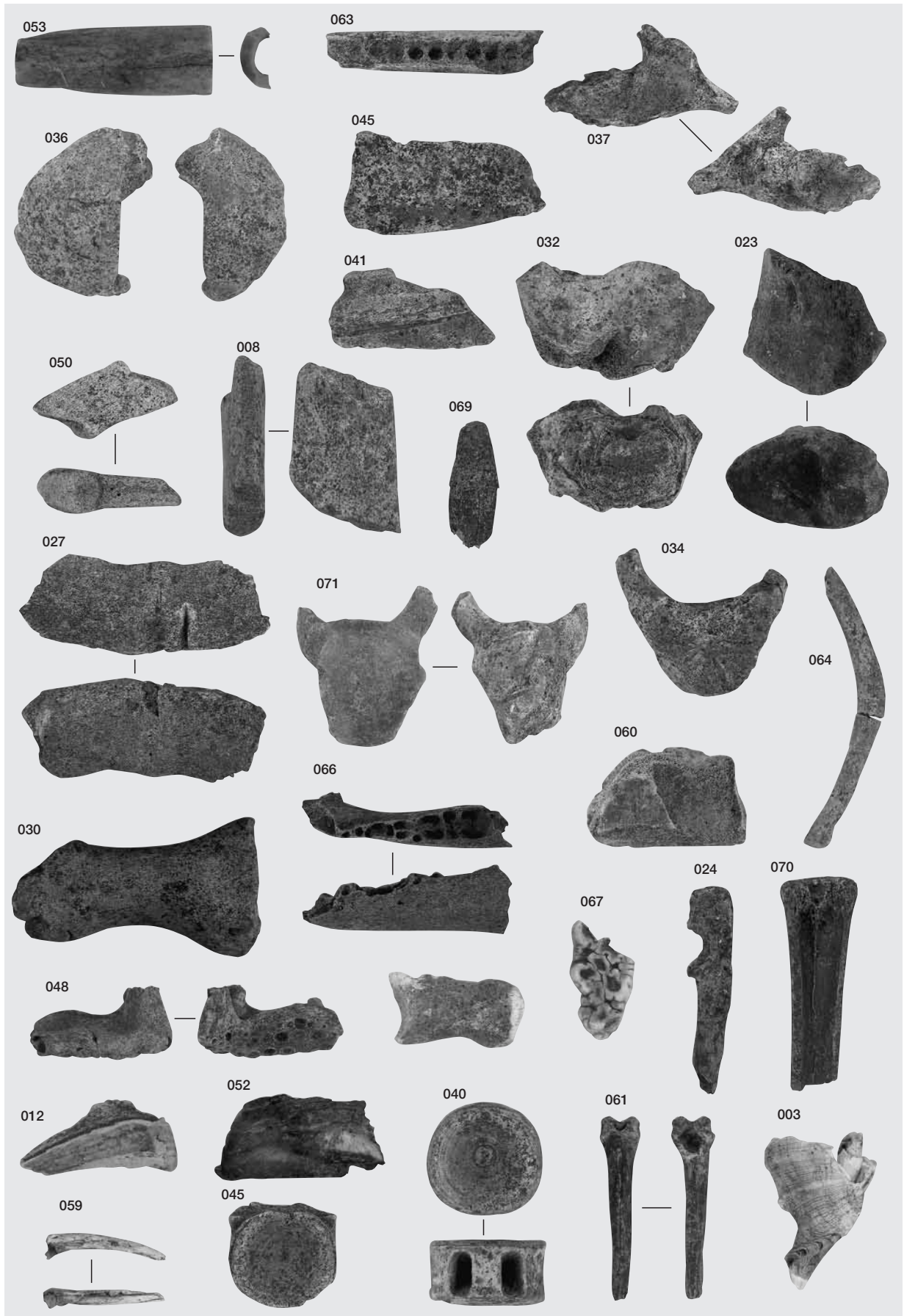
(2) 第5面全景 (西から)



(3) SD-202東側 (東から)



图版 4



出土動物骨

# 報告書抄録

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                    |                                                    |                                                      |                |                       |        |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------|----------------|-----------------------|--------|
| ふりがな          | はかた109                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                    |                                                    |                                                      |                |                       |        |
| 書名            | 博多109                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                    |                                                    |                                                      |                |                       |        |
| 副書名           | 博多遺跡群第151次調査の報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                    |                                                    |                                                      |                |                       |        |
| 巻次            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                    |                                                    |                                                      |                |                       |        |
| シリーズ名         | 福岡市埋蔵文化財調査報告書                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                    |                                                    |                                                      |                |                       |        |
| シリーズ番号        | 第895集                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                    |                                                    |                                                      |                |                       |        |
| 編著者名          | 大塚紀宜                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                    |                                                    |                                                      |                |                       |        |
| 編集機関          | 福岡市教育委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                    |                                                    |                                                      |                |                       |        |
| 所在地           | 810-8621 福岡県福岡市中央区天神1丁目8-1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                    |                                                    |                                                      |                |                       |        |
| 発行年月日         | 平成18年3月31日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                    |                                                    |                                                      |                |                       |        |
| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | コード                |                                                    | 北緯                                                   | 東経             | 調査期間                  | 調査面積   |
|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 市町村                | 遺跡番号                                               |                                                      |                |                       |        |
| はかた<br>博多遺跡群  | 福岡市博多区<br>上呉服町85-86                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 40130              | 020121                                             | 33°35'48"                                            | 130°24'<br>42" | 20050207<br>-20050323 | 162.8㎡ |
| 調査原因          | 遺跡種別                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 主な時代               | 主な遺構                                               | 主な遺物                                                 | 特記事項           |                       |        |
| 共同住宅建築        | 集落                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 中世・近世<br>(12～18世紀) | 中世：土坑・土壙墓<br>39、井戸4、溝状遺<br>構2<br>近世以降：土坑24、<br>井戸2 | 中世：中国陶磁器・<br>高麗陶磁器・国産陶<br>器・獣骨・銅銭<br>近世：国産陶磁器・<br>獣骨 |                |                       |        |
| 要約            | 5面の調査を実施した。上面より第1面は標高5mで、16～17世紀の遺構・遺物が検出される。近代以降の攪乱が多く、検出された遺構も不整形の用途不明土坑が多い。第2面は標高4.4mで、整地層群の最上面に設定する。第2面では14～15世紀の遺構・遺物を検出する。町筋に関係するとみられる石敷きの溝状遺構が検出される。溝内から板碑破片が検出される。検出された土坑は第1面と同様に用途不明の不整形土坑が多い。第3面は標高3.9mで、整地層群の中位に設定する。第3面では13～14世紀の遺構・遺物を検出する。土壙墓とみられる幅1m長さ1.5m程度の長方形の掘り込みが多数切り合い、完形の碗・土師皿、刀子などが土壙墓内から検出される。切り合いの程度からみて、かなりの墓葬が密集していたとみられる。第4面は標高3.6mで、整地層群最下面、黒褐色砂質土層上面で設定する。井戸・土坑・柱穴などが検出される。井戸は桶枠で検出面からさらに2m以上掘りこまれる。第5面は標高3.1mで明褐色砂丘層上面に設定する。ピット・井戸を検出する。井戸は2基でいずれも桶枠とみられる。遺構内からの遺物の量は少ない。<br>土壙墓群は近在する聖福寺との関連で考えることができる。確認できた最も古い遺物は11世紀後半～12世紀前半の玉縁口縁をもつ白磁碗破片であるが、この地点での上限はさらに上る可能性がある。 |                    |                                                    |                                                      |                |                       |        |

## 博多109

2006年（平成18年）3月31日

発行 福岡市教育委員会

福岡県福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 (株)富士印刷社

福岡市東区箱崎ふ頭6丁目6-45